琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係　財産関係

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2019-02-14
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43853

(4)

南北大東島の土地所有権及び借地権

文書課長

連絡局長
連絡課長

懸案

	発信用	執務用	
主信	1	1	2
附属 甲	1	1	1
附属 乙	(その他)添付		
附属 丙			
附属 丁			
備考			

文書課発送日 昭和廿六年九月廿五日

主管 管理局長

主任 総務課長

浄書

正校（原稿）（浄書）

昭和26年9月20日起草

管総第九二号

昭和廿六年九月廿五日日附

附属

受信人名 農林事務次官

先付送写

件名 南北大東島の土地払下に関する資料提供方依頼に関する件

発信人名 外務事務次官

記録件名

記録了

別紙

公信案

本件に関し、連合国総司令部から九月十四日付をもって別添写の通りの覚書が発せられているので、一八九二年から一九〇四年においてて貴省より玉置半右衛門若しくは東洋製糖株式会社（現在の日本製糖株式会社）に該地土地払下げの事実があれば、譲渡証写（和、英文各一通）提供せられたく右依頼する。

外務省

別紙添付

管総第九二号

昭和二十六年九月二十二日

外務事務次官

農林事務次官　殿

南・北大東島の土地払下に関する資料提供方依頼に関する件

本件に関し、連合国総司令部から九月十四日付をもつて別添写の通りの覚書が発せられているので、一八九二年から一九〇〇年において貴省より玉置半右衛門、若しくは東洋製糖株式会社（現在の日本製糖株式会社）へ、該地土地払下げの事実があれば、譲渡証写（和、英文各一通）提供せられたく右依頼する。

外務省

別紙添付

管総第一三八三号

昭和二十六年九月二十二日

外務省管理局長

大日本製糖株式会社社長　殿

南・北大東島の土地所有権及び借地権に関する資料提供方依頼に関する件

本件に関し、連合国総司令部から九月十四日付をもつて別添写の通りの覚書が発せられているので、貴社の沿革及び一八九二年以降の右両島における貴社の土地所有権又は現地使用人の小作権に関する資料写一切を御提出相成度く右依頼します。

外務省

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS
Military Intelligence Section, General Staff
Japanese Liaison Section
APO 500

14 September 1951

MEMORANDUM FOR: MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS
Attention: Liaison Bureau

SUBJECT : Request for Information

1. It is requested that this office be furnished with transcript of the original grant made by Japanese Government to Heazaemon Tamaoki or Tamaoko and Co. between the years 1892 and 1900 for areas comprising Kita and Minami Daitos, located approximately 225 miles east of Okinawa.

2. Information indicates that Tamaoki was succeeded in 1900 by Toyo Sugar Manufacturing Co., which continued until May 1916, when it was merged with Dai Nippon Seito K.K. or Nitto Kogyo K.K.

3. It is further requested that this office be furnished with information regarding rights of tenants during above-mentioned periods.

4. Full information regarding above may be obtained from Japanese Government records and from Dai Nippon Seito K.K. or Nitto Kogyo K.K. in offices of the Japanese Sugar Manufacturing Co., Ltd., Number 2 Kanda, Tomiyama-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

For the Assistant Chief of Staff, G-2:

DAVID S. TAIT
Colonel GSC
Chief, Japanese Liaison Section

Received: 15 Sept 10.30 a.m.
Shukan : CG
Copy : C of L. C of P.
LCO. MA.

連絡局長
連絡課長
起案

	発信用	執務用	
主信	1	1	2
附属 甲	1	0	1
附属 乙			
附属 丙			
附属 丁			
備考			

文書課長

文書課発送日 昭和廿六年九月廿五日

主管 管理局長

主任 総務課長

管総第一三八二号

昭和廿六年九月廿貳日日附

昭和26年9月19日起草

浄書

正校（原稿）（浄書）

受信人名 東京都千代田区神田富山町二番地 大日本製糖株式会社々長

先付送写

発信人名 管理局長

記録件名

件名 南北大東島の土地所有権及び借地権に関する資料提供方依頼に関する件

附属

公信案

本件に関し、連合国総司令部から九月十四日付をもって別添写の通りの覚書が発せられているので、貴社の沿革及び一八九二年以降の右両島における貴社の土地所有権又は現地使用人の小作権に関する資料写一切を御提出相成度く

右依頼します。

外務省

別紙

22 62

南、北大東島の土地問題について

南、北大東島の土地については、戦前該地で製糖業及び燐礦石採掘業を経営していた現日本製糖株式会社（社長藤山愛一郎氏）が同社に合併前の東洋製糖株式会社当時（大正五年）日本政府より払下げを受け（覚書に依れば土地の払下げを受けたのは玉置半右衛門となっているが、これは誤りと思われる）、両島の土地所有権は現在の日本製糖株式会社にあり、同社に雇傭されていた五、〇〇〇人に上る沖縄、八丈島出身者は単に小作権を持つのみであった処、米軍占領下の今日ではその土地は軍の管理下に置かれ、自由に耕作も出来ず、而も将来この土地が再び日本製糖に返還されるとすれば、これらの人々の死活問題となるとして、該地の所有権を日本製糖より、これら住民に移譲して欲しい旨の陳情書を作製、沖縄群島政府平良知事に提出する一方、寫を東

外務省

東京在住の高嶺明達氏に送付（別添参照）在日沖縄出身者の後援を依頼して来ているものである。

右に対し平良沖縄群島政府知事は前記陳情書を琉球民政府副長官に取り次ぎ軍の善処を依頼した処、軍よりは、先づ両島代表者と日本製糖との直接交渉をなすべきことを勧告（別添(2)）しているが、本覚書の趣旨は日本製糖の土地所有権と住民の小作権につき日本政府及び同社からの資料に基き確めたい意向にあるものと思われる。

外務省
外務省

総務課 管

Japanese Liaison Section
APO 500

14 September 1951

MEMORANDUM FOR : MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS
Attention: Liaison Bureau

SUBJECT : Request for Information

1. It is requested that this office be furnished with transcript of the original grant made by Japanese Government to Hanzaemon Tamaoki or Tamaoko and Co. between the years 1892 and 1900 for areas comprising Kita and Minami Daitos, located approximately 225 miles east of Okinawa.

2. Information indicates that Tamaoki was succeeded in 1900 by Toyo Sugar Manufacturing Co., which continued until May 1916, when it was merged with Dai Nippon Seito K.K. or Nitto Kogyo K.K.

3. It is further requested that this office be furnished with information regarding rights of tenants during above-mentioned periods.

4. Full information regarding above may be obtained from Japanese Government records and from Dai Nippon Seito K.K. or Nitto Kogyo K.K. in offices of the Japanese Sugar Manufacturing Co., Ltd., Number 2 Kanda, Tomiyama-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

For the Assistant Chief of Staff, G-2:

David S. Tait

DAVID S. TAIT
Colonel GSC
Chief, Japanese Liaison Section

第 號
26. 9. 15
管 總

26. 9. 15

参考

極東軍司令部

一九五〇年十二月五日

軍務局長 米陸軍准将 ケイ・ビー・ブッシュ

琉球軍司令官殿

琉球列島米国民政府に関する指示

前略

(9) 11. 在日本の日本人又は日本人法人団体にして琉球列島内にあり、しかも米国政府が必要としない財産を所有しているものは引続きかゝる財産を管理してもよい。但し之は琉球経済の便益のために適当に利用すべきである。琉球列島経済のため使用する必要のある財産の所有者がその使用について同意しなかった場合は副長官は民法廷で収用手続を発動させ之を収用する。そして所有権が確保された時

この財産は申込者中購入を許可してもよい者に拂下げる。

12. 副長官は琉球列島内にある不動産を所有している日本人の財産中米国政府が必要としないものについては右の所有者に対し極力之を琉球列島の住民に賣るようにすゝめる。

（一九五一年一月五日附沖縄群島政府公報による）

外務省

外務省

大谷為造（昭和四年九月十五日）

南　三、〇七一町七三一〇

拂下面積　北　一、六六九町[illegible]三〇〇

計　四、七四一町四六三〇

南　二〇、七八〇円〇〇

拂下価格　北　五八、六〇円〇〇

計　一六、六四〇円

大正六年十二月　那覇市区裁判所に登記

大正六年六月十二日　国有林野不要存置　拂下

契（東洋製糖）

南北両大東島に関する要陳情書八号に附いては、当沖縄民政官府の方でも深重に考慮し関係代表者達とも数度にわたって協議を重ねて来た。島民の窮状を無視した日本政府による五十年当の行政上の合法的粉糾について現地においても日本内地においてもよく調査したが、その記録によれば東洋及大日本両会社は地方当局の援助を得て両島土地合法ー倫理的とはいえないけれども所有権を獲得した。もしその事が確実なれば島民にその所有権を返還するには土地解放申請の手続きを執らねばならず而してそれは講和会議によって土地収用権が確立されねば執行され得ない。依って調査が完了し同島の主権が決定する迄琉球財産管理局の管下におかれる。

本日（九月二十一日）軍政府より、この覚書が参りましたから御参考の為送付致します。

総務部

No.1

覺書

[illegible]の覚書

第壹　南大東島從來の農業移住民（賃金勞働者を包含せぬ以下單に島民と稱す）が合名會社玉置商會に對し契約したる各事項及合名會社玉置商會より指示命令されたる各事項並に從來南大東島に於て習慣となりたる各事項にして本覺書と抵觸せざるものは島民に於て東洋製糖株式會社（以下單に會社と稱す）に對して之を誠實に遵守すること

第貳　會社は從來の島民の同島内に居住する間は各自現在の耕作地を向ふ拾貳ケ年半小作せしむ。但前記耕作地中には既に玉置商會より割當られたる未墾地をも含む

會社に於て工場鐵道敷地其他事業經營上及公共上必要と認め相當替地を指定されたるときは島民に於て異議なく之に從ふものとす

第參　前記小作者が甘蔗耕作上會社の指圖に反せず且つ小作地を荒廢せしむることなく又同島の秩序を紊す行爲なき場合に於ては會社は島民

devastate

No.2

の子々孫々に至る迄小作地の契約繼續をなすことを承認す

第四　小作地は島民間に於て相互讓渡をなすことを得。但し會社の承認を受くべし

第五　島民が前記小作地の拾分の壹迄の面積に於て甘藷穀物野菜等を耕作したる場合は其の部分に限り小作料を徴集せず

第六　島民は前項以外の小作地に付ては作物種類の選定耕耘肥培の方法等は總て會社の指圖に從ふこと

第七　小作料は左記各項に準據し算定す

甲．從來の方法に依り島民が收獲甘蔗全部を自己の費用を以て砂糖製造を爲したる場合に於ては賣上代金中より會社が賣上に關し支出したる一切の費用諸掛を控除したる殘額の拾分の七を小作人の所得とし其拾分の參を會社の所得とす　但し會社は事業年度の終りに於て前記支出金の支拂明細書及産出糖賣上代金明細書を公表し直ちに島民の所得分を支拂ふ

ものとす

乙 會社か新規製糖器械を設置し島民より甘蔗を買入るゝ場合は收獲甘蔗の拾分の七を小作人の所得とし拾分の參を會社の所得とす

甘蔗の買入は同島開拓已來前記甲法により島民か收得したる利益金と砂糖産出に要したる費用とを調査し從來島民の得たる純利益以上の割合を以て之を算出す

但し島民代表者の意見を徴すること

第八 會社か土地拂下の許可を得たる場合に於ては會社は島民か現住する宅地を當該居住者に無償讓與す尚宅地の狹隘なるものに對しては相當の宅地を増加す

第九 會社か新規製糖器械を設置する爲め不用に歸する島民所有の製糖に關する器具機械は會社に於て相當と認むる價格(買入原價保存年限及使用したる年限を參酌し之を定む)を以て買上げること並に製糖小屋

牛馬は時價を以て買上ぐること

第拾 耕作資金及病氣其他緊急の場合に要する費用は會社に於て相當と認めたる範圍内に於て出來得る限り貸付をなす

第拾壹 種苗の改良肥料供給害蟲豫防驅除灌漑其他農事改善に關し會社は其適當と認むる方法により補助を爲す

第拾貳 沼池の泥土は肥料として島民に於て無料採取するを得、

但し採取区域及方法は會社の指圖に從ふものとす

第拾參 天災に依り收入皆無に近き場合は會社の見込に依り相當の救濟方法を講ず。

第拾四 會社は實費を以て日用品を島民に供給す

第拾五 島民中日用品の販賣等着實なる營業を爲さんとするものある時は會社はこれを承認すること

第拾六 学校病院道路軌條の布設其他公共の設備は從來の慣習に從

ひ漸次完成せしむ

第拾七　無線電信を設置し電信郵便局を開始する様可成迅速に取運ぶこと

第拾八　農事及製糖用の労働者は島民に於て個人傭入れを為すこと自由なれ共島民の協議によりこれを會社に委嘱したる場合に於ては會社はこれか傭入れの労を取ること、但其の給料は島民に於て協議決定すること

第拾九　合併後現在大東島玉置商會の事務員は可成継續採用の方針を取ること

第貳〇　海岸荷役組合員は可成継續採用の方針を取ること

第貳壹　合併後自然失業者を生じたる場合は會社に於ても其相當と認むる方法に依り保護の途を講ずること

第貳貳　小作地の立木は保安防風其他公共の必要有りと認むる者の外[illegible]は其小作者に代採利用を許容すること

第貳參　阿且葉（パナマ材料）は保安防風其他公共の必要有りと認むる者の外島民の無料採取を許容すること

第貳四　前記各項の變更其外島民の利害に重大なる関係ある事項の新設又は變更は島民代表者と協議すること

第貳五　大東島理事玉置半右衛門氏の身上に就ては可成利益となる様會社に於て出来る限り盡力を為すこと

本覺書貳通を作成し壹通は會社壹通は島民代表者に於て保有するもの也

大正五年九月拾八日

MEMORANDUM
Made in 1916, when the Daito project was transfered from the Tamaoki & Co. to the Toyo Seito Co., Ltd.

1. The original farming settlers in the Island of Minami-Daito (excluding the hired labourers; hereinafter simply called as the Islanders) shall be responsible to the Toyo Seito Co., Ltd. (hereinafter called as the Company) to faithfully abide by the agreements made between the Islanders and the Tamaoki & Co., including the instructions and orders ~~made~~ given by the ~~same company~~ latter and the established customs in the Minami-Daito Island, provided that such matters do not conflict with this memorandum.

2. The Company shall ~~admit the tenancy of~~ permit (the islanders to tenant) the farmland now under use of each of the Islanders for period of coming twelve and one half (12½) years as far as he lives in the island.

The above farmland shall include the land allotted by the Tamaoki & Co. but still remaining unreclaimed.

In case the Company should deem it necessary to use the farmland for purpose of operation of business such as construction of factories, railroad, etc. or for public purposes, and designate other piece of land of reasonable nature as the replacement, there shall be no objection to it on the side of the Islanders involved.

4. The tenanted land may be transfered among the Islanders subject to approval of the Company.

5. Each of the Islanders may use the area not exceeding ten(10) percent of his tenanted land for farming of sweet potatoes, grains and vegetables free of tenancy rent on that part of the land.

6. The Islanders shall obey all instructions of the Company in connection with the matters relating to selection of kind of crops to be formed, methods of cultivating and fertilizing on the farmland other than the part set forth in the above "5".

7. The rate of the tenacy rate shall be calculated on basis of the following methods:

A. In case sugar is produced according to the old method by the Islanders with their own expences using all of their cropped sugar-canes, the amount of all expences and charges incurred in connection with the sale of the sugar by the Company shall be deducted from the proceeds, and seventy (70) percent of the remainder shall be obtained by the tenant farmers and thirty (30) percent shall be obtained by the Company.

At the end of each business year, the Company shall publish the statement of account of the above expenditure and the description of proceeds of the produced sugar, and then make payment of the amount obtainable to the Islanders.

B. In case the Company installs new sugar-manufacturing machineries and purchase all sugar-canes cropped by the Islanders, Seventy(70) percent of the cropped sugar-canes shall be obtained by the tenant farmers and thirty(30) percent of them shall be obtained by the Company.

The price of the sugar-canes to be purchased shall be decided by investigating the profits obtained by the Islanders according to the above method "A" during the time since the first settlement of this island, and also the details of expences needed for production of sugar, but in any case the price shall be decided at a rate more profitable to the Islanders compaired with the net profit usually gained by them.

In this connection the opinion of the representatives of the Islanders shall be considered.

8. When the Company is authorized to purchase the land from the Government, the Company shall transfer the titles of homesteads of the Islanders to the occupants thereon free of price, and in case such homestead is extremely small, it shall be extended into a reasonable size.

9. The Company shall purchase the sugar-manufacturing tools and machineries owned by the Islanders which have gone out of use owing to the new instalation of sugar-manufacturing machineries of the Company at such prices as the Company deems reasonable (considering the original costs, periods of preservation and use). Also the Company shall purchase the sugar-making cottages and cattles of the Islanders.

10. The Company shall lend money to the Islanders for expenses of farming funds, sickness and other contingencies as much as practical within the limit deemed reasonable by the Company.

11. The Company shall help the Islanders in connection with nursery, fertiliaing, prevention and destroy of insects, irrigation and other farming improvements by such ways as deemed suitable by the Company.

12. The Islanders may freely dig out the earth of swamps for use of fertilizing, but the area and method of dig-out shall be subject to the instructions of the Company.

13. Reasonable remedy shall be made by the Company at its own discretion in case almost no crop can be expected on account of calamities by nature.

14. The Company shall furnish the Islanders with articles of daily necessities at cost.

15. Any Islanders who wish to engage in steady business such as selling of daily necessities shall be admitted by the Company.

16. Schools, dispensaries, roads, railways and other public facilities shall be continuously maintained and gradually increased along the lines of existing customs until completion.

17. Arrangements shall be made promptly for establishment of roadio station and telegraphic and postal office.

18. The Islanders may employ labourers for their own farming and sugar-making. In case the Islanders decide by negotiations among themselves to assign such employment to the Company, the Company shall take care of such employment. But the wages of the labourers shall be decided by negotiations among themselves.

19. Upon merger of the project to the Company, it shall be the principle of the Company to employ the clerks of the Tamaoki & Co. as many as practical in number.

20. Also it shall be the principle of the Company to employ the members of the coast stevedors association as many as practical in number.

21 In case there should be found any non-employment caused by the merger, the Company shall take measures for protection in such ways as the Company deems it suitable.

22. The tenant farmers shall be allowed to cut down and utilize the live trees growing on his tenented land unless such trees are deemed necessary for public safty, wind beaking or other public purposes.

23. The Islanders shall be allowed to gather "adamba" leaves (material for panama hats) growing in the island unless such are deemed necessary for public safty, windbreaking or other public purposes.

24. Establishment or alteration of matters of grave interest to the Islanders in addition to the above items, shall be previously negotiated with the representatives of the Islanders.

25. As to the personal position of Mr. Hanemon Tamaoki, Director in Daito Jima, the Company shall make all efforts for arrangements to help him to get satisfactory results.

This Memorandum is prepared in two copies, the Company keeping one copy and the representative of the Islanders the other copy.

Made on September 18, 1916

小作地規程

第一章 總則

第一條 大正五年九月拾日の覚書に準據し會社は本島在住者の利益幸福を増進せしむる目的を以て本規程を制定す

第二條 本規定に於て島民と稱するは本島内に永住の目的を以て渡島し土地の割當てを受け誠實耕作に從事するものとす、島民にして本島を去りたる場合は勿論官職に就き又は會社の社員となりたる場合は島民たる資格を喪失するものとす

但第五條の規程に反せざる限り其事由を生じたる後二ヶ月以内に其の小作權を他に讓渡することを得

第二章 小作權

第三條 會社は土地測量完結後に於て精密なる土地台帳及地圖を作製し該台帳に島民の小作權地を登録し小作權證を附與す

第四條 前條の場合と雖も官廳の命により當該小作地が官地に編入せられ

又は官用公共用地に指定せられたるときは此の場合に於て會社は替地を貸付し得る限り之れを貸付すべし

第五條 小作權の讓渡は左記以外のものに對しては之れを認めざるものとす

(イ) 小作權を有する者死亡したる場合其法定相續人が本島に在住して耕作に從事することを會社に誓約したるとき

(ロ) 小作權を有するものが隱居し其の法定相續人が本島に在住して耕作に從事することを會社に誓約したる場合

(ハ) 土地割當を受けたる島民が割當後滿三年以上當島に在住し砂糖製造又は甘蔗耕作に從事し相當成績を擧げたるもの其小作權を他に讓渡せむとする場合此の場合に在りては讓受人が永く本島に在住し將來甘蔗の耕作に從事すべき事及讓渡人一切の債務を引受け會社に迷惑を及ぼさざることを誓ふことを要す

(ニ) 會社に於て特に小作權讓渡の必要ありと認めたるとき

第六條 前條の各項に該當するものは讓渡の事由を生じたる時直に其事由を具し會社に願出承認を受くる事を要す

第七條 第五條以外の場合に於て又は第六條の手續をなさず小作權の讓渡を爲すものある時は會社は小作權を沒收し受授双方共小作權を失ふものとす既往にありて讓渡しをなしたるものは大正五年十二月末日迄に第六條の手續を完了せざる時は大正六年一月一日より本條を適用す

第八條 左に掲ぐるものに對しては會社は小作權を沒收す

(イ)小作者が甘蔗耕作に付會社の指示命令に違反し小作地を荒廢せしめたる時

(ロ)一時歸國の目的を以て本島を離れ滿一ヶ年以上當島に歸還せざる時

(ハ)成規の手續を履行せず漫りに本島を離れたる時

第九條 小作權は會社の承認を經ずして質入抵當をなす事を得ず本條に違反したるものあるときは小作權を沒收す

第三章 開墾

第十條 新に土地の割當を受けたるものは左の方法により割當てられたる土地を開墾し甘蔗耕作に從事すべし

(イ)割當てられたる土地は割當の日より向ふ六ヶ月間に其面積の四分の一以上を開墾すべし 萬一気候の如何により前項の開墾を爲し難き時は其事由を具し會社の承認を求むべし

(ロ)前項の開墾を終りたる後六ヶ月以内に全面積の三分の二以上を開墾し全面積の三分の一以上は甘蔗を栽植すべし

(ハ)土地割當後滿二ヶ年以内に全面積の十分の九以上に甘蔗を栽植すべし

(ニ)特に蔬菜地として割當られたるものは前三項に準し蔬菜を栽植すべし

第十一條 前條の開墾植付を爲さざるものある時は會社は割當地の全部又は一部を沒收することあるべし

第十二條 大正五年七月以降に於て土地の割當を受けたるものは別紙割當

土地開墾誓約書を提出し開墾に従事すべし

第十三條　大正五年七月一日以前に小作地の割當を受けたるものにして未だ成墾せざる土地あるものは大正七年三月迄に開墾及甘蔗の植付を終了すべし但し新開地に就ては前に調査するものとす

第十四條　前項に違背したるものに對して會社は其未墾地を没收することあるべし

第四章　耕作

第十五條　小作地の耕作物選定及耕作方法は一切會社の指示命令に従ふべし

第十六條　小作料の算定は大正五年九月十八日の覚書に依る

第十七條　小作地の十分の一以内に甘蔗蔬菜等を栽植せる場合には小作料を徴收せず

第十八條　五反歩以上の小作地を有するものが其の十分の一以上に甘蔗蔬菜を栽植したるものある時は十分の一を超過したる面積の一反歩に付金参圓の小作

料を徴收す但し五反歩以下の蔬菜地に對しては小作料を徴收せず

第十九條　第十五條の規程に違反し又は小作料を滞納したるものは小作地を没收することあるべし

第五章　義務

第二十條　小作權を有するものは戸數及生産甘蔗又は砂糖別による各種の負擔を辭することを得ず

大正五年十一月十六日

東洋製糖株式會社大東島製糖所

小作地規程中左の通り改正す

大正七年五月二十日

大東島製糖所

第五條（三）の次へ左の一項を加ふ

（ホ）小作地全部を譲渡するときは會社に於て其殘り小作面積僅少に過ぐると認

めたる場合には殘り小作地全部及宅地~~全部~~を併せて譲渡するに非ざれば之を承認せず且つ小作地全部を譲渡したるものは次航海に於て本島を立去ることを要す

第六條に左の一項を加ふ

小作權譲渡承認を受くる場合は左の手數料を添へ願出づべし宅地譲渡の場合亦同じ

一、譲渡町數每壹町歩に付金壹圓

一、端數は畝迄前號の割合にて計算し畝に充たざるものは一畝とす

小作地規程改正

大正五年五年十一月十六日發表小作規程第八條中(ハ)の次に左の項を追加す

(ニ) 會社の許可を經ず小作權に影響を及ぼすが如き契約を第三者と締結したる場合

(ホ) 會社の承認を經ず又小作請負小作等をなさしめたる者

Tenancy Regulation

Chapter I General

Art. 1 This regulation is established by the Company based on the Memorandum of September 18, 1916 for purpose of enhancing the interest and welfare of the ~~residents of~~ (people dwelling in) this island.

Art. 2 In this regulation, the "islanders" shall mean those who settled in this island permanently, obtained allocation of farmland and engage in farming faithfully. When any islander has moved out of this island or taken position in any Government office or employed by this Company, he shall lose the capacity as an islander. However, he shall be permitted to transfer his tenant-right to others within two(2) months after the date of cause for which he has lost the capacity of an islander, provided that such is not contrary to the provision of Article 5.

Chapter II Tenant-right

Art.3 Upon completion of land surveying, the Company shall prepare precise Land Register and maps. All tenant land of the islanders shall be registered in the book, and tenant certificates shall be given to the tenant farmers.

Art.4 In case of above Article 3, if any tenant land should be merged into the Government land or designated as the land for public use of the Government, the Company shall tenant other land for replacement as far as possible.

Art.5 Transfer of tenant-right shall be permitted only when:

a. Any entitled tenant farmer died and his legal heir swears with the Company to settle in the island and engage in farming.

b. Any entitled tenant farmer retired and his legal heir swears with the Company to settle in the island and engage in farming.

c. Any islander who obtained allocation of farmland, has lived in the island and engaged in sugar-making or sugar-cane farming for period of more than thre(3) years after the allocation of land, and wishes to transfer his tenant-right to others. In this case, however, the assignee shall swear that he will settle in the island to engage in sugar-cane farming and that he will take over all obligations of the transferer and also will not cause any disadvantage to the Company.

d. The Company deems it necessary.

Art.6 In case of "a" to "d" of the above Article 5, application of transfer stating the reasons shall be filed with the Company for approval soon after the date of cause for which such transfer is requested.

Art. 7 In case of any transfer of tenant-right other than the cases set forth in Article 5, or such as made withour the procedure set forth in Article 6, the tenant-right shall be confiscated by the Company and accordingly both the transferer and assignee shall lose the tenant-right.

Transfers already effected shall be required to finish the procedures of Article 6 before the end of December 1916, or they shall be handled according to the provisions of this article effective January 1, 1917.

Art. 8 The tenat-right shall be confiscated by the Company when:

a. The nenant farmer left this island temporarily and does no come back to the island for more than one year.

b. The tenant farmer left the island at his own will without making necessary procedures.

c. The tenat farmer did not obey to the instructions and orders of the Company concerning sugar-cane farming and left the farmland devastated.

Art. 9 The farmland shall be prohibitted to be pledged or mortgaged without previous approval of the Company. Any violation to this Article shall result in confiscation of the tenant-right.

Chapter III Reclamation

Art. 10 Land of new allocation shall be reclaimed so as to plant sugar-canes according to the following methods:

a. More than one fourth(¼) of the allocated land shall be reclaimed within six(6) months after the date of the allocation. If it is difficult to complete the same work owing to the weather, etc., it shall be reported stating the reasons, to the Company for approval.

b. More than two thirds(2/3) of the total area shall be reclaimed and sugar-canes be planted on more than one third(1/3) of the total area within six(6) months after the completion of the reclamation set forth in above "a".

c. Sugar-canes shall be planted on more than ninety(90) percent of the total area within two(2) years after the date of land allocation.

d. When the allocation was made particularly for purpose of planting vegetables, the vegetables shall be planted in the similar way with the above "a", "b" and "c".

Art. 11 In case of failure of reclamation and plantation mentioned in the above Article 10, the Company may confiscate all or a part of the allocated land.

Art. 12 Those who have abtained allocation of land after July, 1916 shall submit to the Company the letter of swear of land reclamation using the attached form and engage in the work of reclamation.

Art. 13 Those who have obtained allocation of tenant land before July 1, 1916, but not yet finished the reclamation, shall complete the reclamation of land and plantation of sugar-canes before March of 1918, except for the land specially allotated for cutting firewoods, which shall be seperately investigated.

Art. 14 Any failure in fulfilling the provisions of the above Article 13, may result in confiscation of the unreclaimed part of land by the Company.

Chapter IV Plantation

Art. 15 Selection of kind of crops and methods of farming on the tenant land shall be decided in every respect in compliance with the instructions and orders of the Company.

Art. 16 Calculation of tenant rent shall be made in accordance with the Memorandum of September 1916.

Art. 17 Tenant rent shall be free for the part of land not exceeding ten(10) percent of the total tenant land where sweet potatoes and vegetables are planted.

Art. 18 When the total tenant land exceeds five(5) Tan in area, and sweet potatoes or vegetables are planted on the part of land exceeding ten(10) percent of the total area, tenant rent shall be charged for the exceeding part of land at the rate of three(3) Yen per Tan.

However, tenant rent shall be free for vegetables plantations not more than five(5) Tan in area.

Art. 19 Any violation of the provisions of Article 15 or arrearage of the tenant rent may result in confiscation of the tenant land.

Chapter V Obligation

Art. 20 It is the duty of each entitled tenant farmer to pay various taxes levied on them based on household rate, output of sugar or sugar-canes, etc.

Made in November 16, 1916

By the Toyo Seito Co., Ltd
Daito Sugar Plant

Amendment of the Tenancy Regulation
Dated May 21, 1918

The Daito Sugar Plant

1. Following is added to Article 5.

" e. When, in the opinion of the Company, any partial transfer of tenant land will cause the remaing part to become to small, such transfer shall not be approved, unless it is changed into a transfer of the whole tenant land together with the homestead.

Those who have transfered all of their tenant land must move out of the island by the earliest transportation available."

2. Following is added to the Article6.

" Application of transfer of tenat-right shall be made accompanied by the payment of the foolowing charge.

Above shall be same with transfers of homestead.

a. One(1) Yen per one(1) Chobu of transfered land.

b. In calculation, unit of area shall be calculated down to "Se", and the fractions shall be rounded up as 1 "Se". "

3. Following is added to Article 8.

" d. The tenant farmer has made such agreement with a third party, without apporval of the Company, as may affect the tenant-right.

e. The tenant farmer has made, without approval of the Company, sub-tenancy or sub-contract relating to the land."

管理局　総務課

昭和二十六年十月九日

大日本製糖株式會社
取締役社長　藤山愛一郎

外務省管理局長殿

南北大東島の土地所有權及び借地權に關する資料の件

貴省宛九月十四日附連合國總司令部來狀の趣同月二十二日附貴狀管総第一三八三號により左の通り

1 沖繩東方約二二五哩に所在する南北大東島に付一八九二年から一九〇〇年の間に玉置半左衛門又は玉置商會に對し日本政府が讓渡したる事を証する書類の寫を提出され度い

2 資料によれば玉置は一九〇〇年に東洋製糖によつて承繼され、同社は一九一六年五月に舊大日本製糖株式會社（日糖興業株式會社）によつて合併せられた由である

第1799號
26.10.15
管總

26.10.16
34

3 就而右期間内に於ける小作權に就ての資料を提出され度い

4 本件に關する詳細な資料は日本政府の記錄又は東京都千代田區神田富山町二番地大日本製糖株式會社内日糖興業株式會社（舊大日本製糖株式會社）から得られる事と思う

拜誦致しました。

日糖興業株式會社東京出張所は昭和二十年（西暦一九四五年）二月二十五日並に五月二十五日の兩度に亘りて戰災に遭ひ少なからざる重要書類を燒失しその際大東島關係書類も失はれたるもの丶如く、御來示の資料提出に付極力努力を續けて居りますが乍遺憾未だに原本を見出し得ません

幸ひ壹册づつ當社門司工場に保存されありたる左記書籍により

大　東　島　誌　　昭和四年（西暦一九二九年）九月十五日發行

日糖最近廿五年史　昭和九年（西暦一九三四年）四月二十七日發行

1 南北大東島土地使用權が玉置商會より東洋製糖株式會社に讓渡せられたる際の契約書の要點

2 東洋製糖株式會社が大正六年（西暦一九一七年）六月十二日「國有林野不要存置拂下規定」に基き南北大東島の土地並に地上物全部に付日本政府より拂下を受けたる際の拂下内容

3 東洋製糖株式會社が南大東島島民と交したる大正五年（西暦一九一六年）九月拾八日附覺書の内容全文

4 大正五年十一月十六日附小作地規定全文

5 大正七年（西暦一九一八年）五月二十一日附改正小作地規定全文

6 大日本製糖株式會社（舊）が東洋製糖株式會社を合併せる際の契約書全文

が判明致しました。

同書籍は昭和四年と昭和九年の印刷發行にかゝり何れも參百頁を超へ短時日には出版不可能なる事により今日南北大東島の經緯を立証する貴重な資料であると確信致します。

就而必要箇所に付抜粋の上別紙寫の通り提出致します故何卒宜敷御取計らひの程御願ひ申上ます。

先は右資料提出旁々御願ひ迄　　敬具

添附書類

1 東洋製糖株式會社の南北大東島所有迄の經緯並に同社經營時代の小作權に就て

2 大日本製糖株式會社と東洋製糖株式會社の合併に就て

3 南北大東島の沿革

4 昭和二十一年（西暦一九四六年）九月附大東島製糖所作製の「米軍政府宛提出書類目錄」

以上

寫

東洋製糖株式會社の南北大東島所有迄の經緯並に同社經營時代の小作權に就て

甲、參考資料

書名　大東島誌

編者　江崎龍雄

發行者　江崎龍雄

發行年月日　昭和四年九月十五日

轉載箇所　同書三二頁より

乙、內容

南北大東島は神戸鈴木商店の斡旋の下に大正五年三月十一日玉置商會より東洋製糖會社に合併の假契約を締結したるも、合併手續に關し支障あつたから同年四月二十二日更に本契約を締結合併を完了した。越て六月十二日國有林野不用存置拂下規定に基き土地並に地上物全部拂下を受け、茲に南北兩島は東洋製糖會社の所有

になつた。當時人口は三千五百人であつたと言ふ。其の拂下内容
は次の通りである。

一、拂下面積

南大東島	三〇七一町七三一〇
北大東島	一、六六九町三一〇〇
計	四七四一町四六二〇

一、拂下價格

南大東島	一〇七八〇圓〇〇
北大東島	五八六〇圓〇〇
計	一六六四〇圓〇〇

一、拂下月日
大正六年十二月那覇市區裁判所に於て登記濟

一、拂下地代　　即納又は分納別
即納

島民は大東島が東洋製糖會社と合併引繼さるゝや會社の經營方針に對し疑義を抱き、極度に不安恐怖の念に驅られ、恰も生活の安定を奪はるゝ如き感を起し、賣拂反對の陳情書を官に提出すると共に共進會なる組合を組織し、利害關係に對し會社と折衝を重ねたるも、會社は常に公平なる態度を以て終始し、商會の從來採り來れる方針並に島民の意志を尊重し殊に小作權の如きは其儘承認したるを以て何れも安堵の思ひをなしたるも、會社は新式分蜜糖工場を設置して島民各自の製糖を許さず、甘蔗買收を聲明し、買取價格の協定に關しては共進會と軋轢したるも折衝を重ねたる結果、玉置商會、東洋製糖及島民間に意志の疏通を得て解決を告げ、右陳情書を取下げ、同年九月十八日東京に於て會社島民間に二十五ケ條に亘る覺書を取交し、全く會社の經營施設に移ると共に、小作地規程並に防風林取締規程細則の制定を見たのである。
讓渡の契約は東洋製糖株式會社社長下坂藤太郎氏と合名會社玉置商會代表社員玉置すみ氏との間に行はれたるも最初合名會社玉置商會

を甲とし、合名會社鈴木商店を乙とし東洋製糖株式會社を丙として締結せられ其の要點次の如し。

一、甲は別紙目錄の物件を代金十五万圓にて丙に賣渡すものとする

二、甲は其有する南北大東島土地使用權（土地拂下を得る時は其所有權）開墾事業並に之に關する權利を四月末日迄に名義變更委任狀付にて乙に移轉し乙は其對價として東洋製糖株式會社の新株式二〇圓拂込みの株式一万一千株を甲に引渡すものとす、但し丙は本年七月三十一日迄に右株式に對し一株に付七圓五十錢宛の拂込みをなさしむるものとし又右拂込金は全部乙に於て負擔するものとする。

寫

覺書

第一　南大東島從來の農業移住民（賃傭勞働者を包含せぬ、以下單に島民と稱す）が合名會社玉置商會に對し契約したる各事項及合名會社玉置商會より指示命令されたる各事項並に從來南大東島に於て習慣となりたる各事項にして本覺書に抵觸せざるものは島民に於て東洋製糖株式會社（以下單に會社と稱す）に對して之を誠實に遵守すること

第二　會社は從來の島民の同島內に居住する間は各自現在の耕作地を向ふ拾貳ヶ年半小作せしむ

但前記耕作地中には既に玉置商會より割當られたる未墾地をも含む

會社に於て工場鐵道敷地其他事業經營上及公共上必要と認め相當替地を指定されたる時は島民に於て異議なく之に從ふものとす

第三　前記小作者が甘蔗耕作上會社の指圖に反せず且つ小作地を荒廢せしむることなく又同島の秩序を紊す行爲なき場合に於ては會社は

島民の子々孫に至る迄小作地の契約繼續を爲すことを承認す

第四　小作地は島民間に於て相互讓渡を爲すことを得、但し會社の承認を受くべし

第五　島民が前記小作地の拾分の壹迄の面積に於て甘藷穀物野菜等を耕作したる場合は其の部分に限り小作料を徴收せず

第六　島民は前項以外の小作地に付て作物種類の選定、耕耘肥培の方法は總て會社の指圖に從ふこと

第七　小作料は左記各項に準據し算定す

甲、從來の方法に依り島民が收獲甘蔗全部を自己の費用を以て砂糖製造を爲したる場合に於ては賣上代金中より會社が賣上に關し支出したる一切の費用諸掛を控除したる殘額の拾分の七を小作人の所得とし其拾分の參を會社の所得とす

但し會社は事業年度の終りに於て前記支出金の支拂明細書及產出糖賣上代金明細書を公表し直ちに島民の所得分を支拂ふものとす

乙、會社が新規製糖機械を設置し島民より甘蔗を買入れる場合は收獲甘蔗の拾分の七を小作人の所得とし拾分の參を會社の所得とす

甘蔗の買入は同島開拓以來前記甲法により島民が收獲したる利益金と砂糖產出に要したる費用とを調査し從來島民の得たる純利益以上の割合を以て之を算出す

但し島民代表者の意見を徴すること

第八　會社が土地拂下の許可を得たる場合に於ては會社は島民が現住する宅地を當該居住者に無償讓與す、尙宅地の狹隘なるものに對しては相當の宅地を增加す

第九　會社が新規製糖機械を設置する爲め不用に歸する島民所有の製糖に關する器具機械は會社に於て相當と認むる價格（買入原價保存年限及使用したる年限を參酌し之を定む）を以て買上げること並に製糖小屋牛馬は時價を以て買上ぐること

第拾　耕作資金及病氣其他緊急の場合に要する費用は會社に於て相當と

認めたる範圍內於て出來得る限り貸付をなす

第拾壹　種苗の改良肥料供給害蟲豫防驅除灌漑其他農事改善に關し會社は其適當と認むる方法により補助をなす

第拾貳　沼地の泥土は肥料として島民に於て無料採取するを得
但し採取區域及方法は會社の指圖に從ふものとす

第拾參　天災に依り收入皆無に近き場合は會社の見込により相當の救濟方法を講ず

第拾四　會社は實費を以て日用品を島民に供給す

第拾五　島民中日用品の販賣等着實なる營業を爲さんとするものあるときは會社はこれを承認すること

第拾六　學校、病院道路軌條の布設其他公共の設備は從來の慣習に從ひ漸次完成せしむ

第拾七　無線電信を設置し電信郵便局を開始する樣可成迅速に取運ふこと

第拾八　農事及製糖用の勞働者は島民に於て個人傭入れを爲すこと自由なれ共島民の協議により之れを會社に委囑したる場合に於ては會社は之が傭入れの勞を取ること、但し其給料は島民に於て協議決定すること

第拾九　合併後現在大東島玉置商會の事務員は可成繼續採用の方針を取ること

第貳拾　海外荷役組合員は可成繼續採用の方針を取ること

第貳壹　合併後自然失業者を生じたる場合は會社に於ても其相當と認むる方法により保護の途を講ずること

第貳貳　小作地の立木は保安防風其他公共の必要ありと認むるもの丶外は其小作者に伐採利用を許容すること

第貳參　阿且葉（パナマ材料）は保安防風其他公共の必要有りと認むるもの丶外島民の無料採取を許容すること

第貳四　前記各項の變更其外島民の利害に重大なる關係ある事項の新設又は變更は島民代表者と協議すること

第貳五　大東島理事玉置半右衞門氏の身上に就ては可成利益となる樣會社に於て出來る限り盡力を爲すこと

本覺書貳通を作成し壹通は會社、壹通は島民代表者に於て保有するもの也

大正五年九月拾八日

寫

小作地規程

第一章 總則

第一條　大正五年九月十八日の覺書に準據し會社は本島在住者の利益幸福を增進せしむる目的を以て本規程を制定す

第二條　本規程に於て島民と稱するは本島內に永住の目的を以て渡島し土地の割當てを受け誠實耕作に從事するものとす

島民にして本島を去りたる場合は勿論官職に就き又は會社の社員となりたる場合は島民たる資格を喪失するものとす

但第五條の規程に反せざる限り其事由を生じたる後二ヶ月以內に其小作權を他に讓渡することを得

第二章 小作權

第三條　會社は土地測量完結後に於て精密なる土地台帳及地圖を作製し該台帳に島民の小作權地を登錄し小作權證を附與す

第四條　前條の場合と雖も官廳の命により當該小作地が官地に編入せられ又は官用公共用地に指定せられたる時は此場合に於て會社

は替地を貸付し得る限り之れを貸付すべし

第五條　小作權の讓渡は左記以外のものに對しては之れを認めざるものとす

(イ)小作權を有する者死亡したる場合其法定相續人が本島に在住して耕作に從事することを會社に誓約したるとき

(ロ)小作權を有するものが隱居し其法定相續人が本島に在住して耕作に從事することを會社に誓約したる場合

(ハ)土地割當を受けたる島民が割當後滿三年以上當島に在住し砂糖製造又は甘蔗耕作に從事し相當成績を擧げたるもの其小作權を他に讓渡せむとする場合、此場合に在りては讓受人が永く本島に在住し將來甘蔗の耕作に從事すべき事及讓渡人一切の債務を引受け會社に迷惑を及ぼさざることを誓ふことを要す

(ニ)會社に於て特に小作權讓渡の必要ありと認めたるとき

第六條　前條の各項に該當するものは讓渡の事由を生じたる時直に其事由を具し會社に願出承認を受くる事を要す

第七條　第五條以外の場合に於て又は第六條の手續をなさず小作權の讓渡を爲すものある時は會社は小作權を沒收し受授双方共小作權を失ふものとす。既往にありて讓渡しをなしたるものは大正五年十二月末日迄に第六條の手續を完了せざる時は大正六年一月一日より本條を適用す

第八條　左に揭ぐるものに對しては會社は小作權を沒收す

(イ)小作者が甘蔗耕作に付會社の指示命令に違反し小作地を荒廢せしめたるとき

(ロ)一時歸國の目的を以て本島を離れ滿壹ケ年以上当島に歸還せざる時

(ハ)正規の手續を履行せず漫りに本島を離れたるとき

第九條　小作權は會社の承認を經ずして質入抵當となす事を得ず本條に違反したるものあるときは小作權を沒收す

第三章　開墾

第十條　新に土地の割當を受けたるものは左の方法により割當てられたる土地を開墾し甘蔗耕作に從事すべし

(イ)割當てられたる土地は割當の日より向ふ六ヶ月間に其面積の四分の一以上を開墾すべし

万一氣候の如何により前項の開墾を爲し難き時は其事由を具し會社の承認を求むべし

(ロ)前項の開墾を終りたる後六ヶ月以内に全面積の三分の一以上に甘蔗を栽植すべし（三分の二以上を開墾し全面積の）

(ハ)土地割當後滿二ヶ年以内に全面積の十分の九以上に甘蔗を栽植すべし

(ニ)特に蔬菜地として割當られたるものは前三項に準じ蔬菜を栽植すべし

第十一條　前條の開墾植付を爲さざるものある時は會社は割當地の全部又は一部を沒收することあるべし

第十二條　大正五年七月以降に於て土地の割當を受けたるものは別紙割當土地開墾誓約書を提出し開墾に從事すべし

第十三條　大正五年七月一日以前に小作地の割當を受けたるものにして未だ成墾せざる土地あるものは大正七年三月迄に開墾及甘蔗の植付を終了すべし、但し薪用地に就ては前に調査するものとす

第十四條　前項に違背したるものに對して會社は未墾地を沒收することあるべし

第四章　耕作

第十五條　小作地の耕作物選定及耕作方法は一切會社の指示命令に從ふべし

第十六條　小作料の算定は大正五年九月十八日の覺書に依る

第十七條　小作地の十分の一以内に甘蔗蔬菜等を栽植せる場合には小作料を徵收せず

第十八條　五反歩以上の小作地を有するものが其十分の一以上に甘蔗蔬菜を栽植したるものある時は十分の一を超過したる面積の一反歩に付金參圓の小作料を徵收す

但し五反歩以下の蔬菜地に對しては小作料を徵收せず

第十九條　第十五條の規程に違反し又は小作料を滯納したるものは小作地を沒收することあるべし

第五章　義　務

第二十條　小作權を有するものは戸數及生産甘蔗又は砂糖別による各種の負擔を辭することを得ず

大正五年十一月十六日

東洋製糖株式會社

大東島製糖所

「小作規程中左の通り改正す

大正七年五月二十一日

大東島製糖所」

第五條(ニ)の次へ左の一項を加ふ

(ホ)小作地全部を讓渡するときは會社に於て其殘り小作面積僅少に過ぐると認めたる場合には殘り小作地全部及宅地を併せて讓渡するに非ざれば之を承認せず且つ小作地全部を讓渡したるものは次航海に於て本島を立去ることを要す

第六條に左の一項を加ふ

小作權讓渡承認を受くる場合は左の手數料を添へ願出づべし宅地讓渡の場合亦同じ

一、讓渡町數毎壹町歩に付金壹圓

一、端數は畝迄前號の割合にて計算し畝に充たざるものは一畝とす

第八條中(ハ)の次に左の二項を追加す

(ニ)會社の許可を經ず小作權に影響を及ぼすが如き契約を第三者と締結したる場合

(ホ)會社の承認を經ず又小作請負小作等をなさしめたる者

寫

大日本製糖株式會社と東洋製糖株式會社との合併に就て

甲　參考資料

書　　名　　日糖最近廿五年史

編　　者　　大日本製糖株式會社調査課

　　　　　　西原雄次郎

發行年月日　昭和九年四月二十七日

轉載箇所　　同書一五〇頁より一五三頁まで

乙　内　容

五四、東洋製糖合併（一五〇頁より）

東洋製糖株式會社は昭和二年の金融恐慌に際し著しく經營難に陷る可き形勢なりしを以て、機を見るに敏なる同社々長山成喬六氏は此の際金融上の難關を突破するは必ずしも難きにあらざるも元來自ら糖業家にあらざるを以て一時を糊塗し繼續するは永久の良策に非ず、或は株主に對しても不測の損害を與ふ可きを慮り、寧ろ一大英斷を以て善處

するに如かずとなし、鈴木商店關係其の他の負債償却の爲、南靖（一千噸）、嘉樹林（七百五十噸）の二工場を明治製糖株式會社に賣却し、爾余の資産を挙げて我が大日本製糖株式會社と合併せり、兩社とも昭和二年七月二十九日臨時株主總會を開きて合併案を可決せしが其の契約書の全文左の如し

契約書

大日本製糖株式會社（以下甲會社と稱す）と東洋製糖株式會社（以下乙會社と稱す）と合併するの目的を以て兩會社間に假契約を締結すること左の如し。

第一條　甲乙兩會社合併して、乙會社は解散し、甲會社は存續するものとする

第二條　甲會社は定款を變更し、株式四拾八万參阡參百參拾貳株、此の資本金貳阡四百拾六万六阡六百圓也

を増加し、資本金總額を金五千壹百四拾壹万六千六百圓也
株式總数を壹百貳万八阡參百參拾貳株に改むるものとす。

第三條　甲會社は乙會社の舊株式（壹株の金額五拾圓全額拂込）新株式（壹株の金額五拾圓内金貳拾圓拂込）各參株に對し甲會社と夫々同額拂込の株式貳株の割合を以て、前條に據る増加株式を發行し、乙會社株主に取得せしむべし。山成喬六氏の承諾を得たるに因り、同氏所有の乙會社株式（壹株金額五拾圓全額拂込）貳株に對しては前項甲會社株式の割當を爲さざるものとす。

乙會社の株主に於ては、株式の提供を爲さざるものあると者は甲乙兩會社の代表者に於て適宜（其の）割當株の引受人を定め合併成立の後株式を競賣して其の代金を前株主に交付すべし。

第一項の割當を爲すに當り生じたる端数株に就ても前項の規定を準用す

第四條　甲乙兩會社の株主總會に於て合併の決議を經たる上は、乙會社は成べく速かに其の營業權現在の財産、其の他一切の權利義務を甲會社に引繼ぎ、甲會社は之を承諾するものとす。

第五條　合併成立の時期如何に拘らず乙會社は本年四月一日以降の計算期に屬する利益金を株主に配當することなく、全部甲會社引繼ぎ、甲會社は合併に依る增加株式に對しては、各拂込金額に應じ本年五月一日以降の計算期に屬する從前の株式に對する配當と同率を以て算出したる金額を交付するものとす。

第六條　乙會社は、本契約締結後其の通常取引行爲の外、會社の財產狀態に重大なる影響を及ぼすべき行爲は、甲會社の同意ある場合の外之を行はざるものとす。
甲會社は乙會社の南靖及び烏樹林兩製糖所處分に關し、乙會社買主との間に締結したる昭和貳年七月拾壹日附、假契約書及び追加假契約書に同意するものとす。

第七條　此の契約書規定の條件に基き合併を遂行するに必要なる事項は、甲乙兩社の代表者に於て適宜協定するものとす

第八條　甲乙兩會社は昭和貳年七月貳拾九日を期し臨時株主總會を招集し、此の契約書を附議して其の承認を求むるものとす
甲乙兩會社の株主總會又は其の一方の株主總會に於て本契約に據る合併を承認せざる時は、本契約は當然無效たるものとす。

右契約の正確なることを證するため、本書貳通を作成し各自壹通を保存するもの也

昭和二年七月十二日

大日本製糖株式會社
取締役社長　藤山雷太

東洋製糖株式會社
取締役社長　山成　喬六

即ち、當社株貳株東洋株參株の條件を以て合併せり。

南北大東島の沿革

南北大東島は明治十八年（西暦一八八五年）八月、我版圖に編入せられたが當時純然たる無人島にして全島千古不伐の原始林を以て蔽はれていたが島内淡水の貯水が確認せられたので爾來沖繩縣廳は廣く入植を奬勵本島の開發促進を期し入植希望者も順次現はれたるも各計畫挫折又は渡航失敗、上陸不能にて壯圖を果さず明治三十三年（西暦一九〇〇年）に至り初めて八丈島人玉置半右衞門により入植成功を見るに至った。

以下主要年度別に大要略記すれば次の如し

明治三十五年（西暦一九〇二年）　初の黒糖收獲、粗糖工場（蒸汽機關五〇馬力）の建設。移住者二二〇名に增加す。

明治四十三年（西暦一九一〇年）　北大東島燐礦發掘開始

大正五年（西暦一九一六年）　東洋製糖株式會社の經營に移り、本格的開發開始さる。島内居住者三五〇〇名を算す。

大正六年（西暦一九一七年）　南大東島新式分蜜糖工場建設翌年完成操業す
能力五〇〇屯（一日）
本年同會社に南北大東島の土地及地上物全部の拂下ありたり

大正七年（西暦一九一八年）　南大東島に酒精工場建設、能力一日一二石

大正八年（西暦一九一九年）　北大東島に燐礦鑛業所建設、燐礦採掘搬出開始

昭和二年（西暦一九二七年）　大日本製糖株式會社により東洋製糖合併の結果本島は大日本製糖の所有に歸す
此の時人口は南大東島四五〇〇名、北大東島二三〇〇名、産糖高は分蜜糖一二万擔（七二〇〇屯）に達す
其後大日本製糖により土地改良、工場其他附屬設備の充實、技術の指導、醫療、教育を初め社會福利施設の徹底、改善が行はれ面目改新顯著なるものあり

昭和一九－廿年　内地との連絡完全に斷たれ事業一時閉鎖す
空襲並に艦砲射撃により工場、諸設備、住家其他甚大なる被害を受く

昭和廿年（西暦一九四五年）　終戰により米軍政下に入る

備考　連合國總司令部本年九月十四日附來状記載の年月は事實と相違す。

昭和二十一年九月

軍政府提出書類目錄

南大東島

北大東島

軍政府提出書類（控）　大東島製糖所

目次

A 接收關係書類

一、固定資産明細表其ノ他

引渡資産總目錄	昭和二十一年六月十一日附
資産一覽表	〃　〃　〃
固定資産明細表（戰前）	昭和二十年一月末日現在
〃　削除明細表	〃　三月ー仝二十一年一月末日迄
〃　明細表（被害建物修繕明細表共）	〃二十一年六月十一日現在

二、在庫品調書

	〃　〃　〃
在庫品一覽表	〃　〃　〃
海軍保管依賴分蜜白糖在庫高	
貯藏品在高明細	昭和二十一年六月十一日現在
〃　〃（帳簿外）	〃　〃　〃

材料在庫品調　昭和二十一年八月調

軍ヨリ讓渡品明細　〃　〃　六月十一日現在

B 調査書類

一、物資移動及土地關係其他

物品輸出入及賣却明細表（終戰後接收マデ）　昭和二十年八月ヨリ二十一年六月迄

土地面積區分調　昭和二十一年六月十一日現在

土地小作權調　〃　〃

接收資產調（島民個人分）　〃　〃

C

一、農業組合調査書類

南大東農業組合計畫書及黒糖製造計畫書

以上

軍政府提出書類（控）　北大東島出張所

目次

固定資產明細表　昭和二十年三月末日現在

物資輸出入調　〃　〃　八月以降

貸借對照表及損益計算書　昭和二十一年二月末日

積出礦石屯數及給料賃金支給額（併ニ用品費調）　〃　〃　一月以降

固定資產明細表　〃　〃　六月

貯藏品殘高表　〃　〃　〃　十一日現在

販賣品殘高明細表　〃　〃　〃　〃

軍讓渡品明細表　〃　〃　〃　〃

島内材木評價額調　〃　〃　〃　〃

貸借對照表其ノ他　〃　〃　〃　十五日現在

以上

Copy of the National Forest Ledger

Oaza ...., Daitojima-mura, Shimajiri-gun.

Aza	Lot No.	Category of land	Acreage	Remarks
Minamidaitojima	1	Forest	3,071 cho 7310	Deleted on 30 Mar. 1918, as the lot had been sold to the Tamaki Company, under Harai A No. 6,516, dated 12 Nov. 1917.
Kitadaitojima	2	-do-	1,669 cho 7310	Deleted on 30 Mar. 1918, as the lot had been sold to the Tamaki Company, under Harai A No. 6,516, dated 12 Nov. 1917.

(Above two lines are superstamped, "Deleted and disposal inspected.")

It is hereby certified that the above was copied from the original National Forest Ledger.

12 October, 1951

Kumamoto Regional Forestry Office (Seal)

October 9, 1951

Chief of Control Bureau,

Ministry of Foreign Affairs,

Tokyo.

Data concerning Land Ownership and Lease in the Region of Kita and Minami Daito Islands

Sir,

I have received your Note Kan-So No. 1383 dated September 22, transmitting the contents of a note of September 14 addressed to the Ministry of Foreign Affairs by the General Headquarters SCAP and I have noted the following points:

1. We are requested to submit transcrip of documents to prove the original grant made by the Japanese Government to Hanzaemon Tamaki or Tamaki & Co. between the years 1892 and ~~1892~~ 1900 for areas comprising Kita and Minami Daitos, located approximately 225 miles east of Okinawa.

2. Information obtained by the authorities concerned indicates that Tamaki was succeeded in 1900 by Toyo Sugar Manufacturing Co., which continued until May, 1916, when it was merged with former Nihon Seito K. K. or Nitto Kogyo K. K. (Nitto Industrial Co. Ltd.)

3. We are further requested to furnish with information regarding rights of tenant during the above-mentioned periods.

4. Full information regarding above may be obtained from Japanese Government records and from Nitto Kogyo K. K. (former Nihon Seito K. K. or former Japan Sugar Manufacturing Co., Ltd.) in offices of Dai Nihon Seito K. K. (Japan Sugar Manufacturing Co., Ltd.), No. 2, Kanda Tomiyama-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, ~~Japan~~.

In this connection, it should be stated that the Tokyo Branch of the Nitto Kogyo K. K. was destroyed by fire twice in the last war, first in air-raids on February 25 and then in air-raids on May 5, 1945, and important documents concerning the Daito Islands seem to have been lost in the conflagrations as the data desired by your note have not been found yet despite our efforts to locate them.

One copy each of the following books kept at our factory at Moji, however, make clear the under-mentioned points. These are the books:

History of Daito Islands, published on September 15, 1929.

History of Nitto in the Last 25 Years, published on April 27, 1934.

These points are clarified in the said books:

1. Main points of the contract concluded at the time when the right to use lands on Kita and Minami Daito Islands was transferred to Tamaki & Co. by the Toyo Seito K. K.

2. Details of objects covered by the sale when all the land and superficies on Kita and Minami Daito Islands were sold by the Japanese Government to the Toyo Seito K. K. on June 12, 1917, in accordance with the Regulations for Sale of Unnecessary State Forests and Fields.
3. The contents of the Memorandum of September 18, 1916, interchanged between the Toyo Seito K. K. and the residents of Minami Daito Island.
4. The full text of the Regulations for Tenant-Land of September 16, 1916.
5. The full text of the amended Regulations for Tenant-Land of May 21, 1918.
6. The full text of the contract concluded when the Toyo Seito K. K. was merged into the former Dai Nihon Seito K. K.

I am confident that the above-mentioned books are valuable materials to show the circumstances concerning Kita and Minami Daito Islands in view of the fact that the two books published in 1929 and 1934 respectively are such voluminous works of over ~~800~~ 300 pages each containing important information, which cannot be compiled in a short time.

Extracts of necessary passages from the books are herewith submitted and you are cordially requested to take necessary steps upon receipt.

Yours respectfully,

Aiichiro Fujiyama
Director and President of the
Dai Nihon Seito K. K.

Enclosures:

1. An account of the circumstances up to the coming of Kita and Minami Daito Islands into the possession of the Toyo Seito K. K. and also information on the tenant-right during the time of the company's management.
2. An account of the merger of the Toyo Seito K. K. with the Dait Nihon Seito K. K.
3. History of Kita and Minami Daito Islands.
4. List of papers prepared and submitted in September, 1946 to the U. S. Military Government by the sugar factory on Daito Islands.

An Account of the Circumstances Up to the Coming of Kita and Minami Daito Islands Into the Possession of the Toyo Seito K. K. and Also Information on the Tenant-Right During the Time of Company's Management.

---

a. Details concerning the book, from which quotation is made:

Title of book: History of Daito Islands

Author : Tatsuo Ezaki

Publisher : do

Time of Publication : September 15, 1929

Page of the book where descriptions are made on the subject matters : Page 32

b. Quotation:

In respect to Kita and Minami Daito Islands a provisional contract was concluded on March 11, 1916, through the good offices of Suzuki & Co. of Kobe, for the merger of Tamaki & Co. into the Toyo Seito K. K., but owing to some difficulty encountered in taking action for carrying out merger, a formal contract was concluded further on April 22 the same year and thus merger was completed. On June 12, the Toyo Seito K. K. purchased all the land and superficies on the islands in accordance with the Regulations for Sale of Unnecessary State Forests and Fields and the company came to own Kita and Minami Daito Islands. The population there at that time was said to have been 3,500. The details concerning the purchase are as follows:

Area purchased:

Kita Daito Islands ......3,071.7310 cho (7,680 acre)

Minami Daito Islands.....1,669.~~3100~~ 7310 " (4,172 ")

T o t a l .... 7,741.~~041~~ 4620 " (19,352 ")

Purchase price:

Kita Daito Islands....... ... ¥ 5,860.00

Minami Daito Island 10,780.00

T o t a l 16,640.00

Time of purchase: The registry of purchase with the Local Court at Naha City was completed in December, 1917.

Payment of purchase: Money for the property: Paid in a lump sum.

The residents of Daito Islands were suspicious about the policies of the new company when the Toyo Seito K. K. succeed Tamaki & Co. to all the rights and titles concerning the islands as a result of the merger of the latter with the former. Being panic-striken by the change of their master, the islanders felt as if their livelihood was threatened and filed petitions with the authorities concerned opposing strongly the transfer of islands to the Toyo Seito K. K. while they conducted negotiations with the company on matters in which they have interest, by organizing an association known as "Kyoshin-kai." The company maintained a fair attitude in dealing with islanders and followed the policy of its predecessor and respected the wishes of islanders

as evident in its recognition of the tenant-right enjoyed then byb islanders without modification and thus set their mind at rest. The company, however, established a new-type centrifugal-sugar manufactory there and allowed no islander to produce sugar themselves, declaring its intention to buy sugar-canes for the manufactory. As to the purchase-price of sugar-canes, the company was in discord with the said Kyoshin-kai formed by islanders, but in consequence of repeated negotiations an understanding was reached between Tamaki & Co. and the Toyo Seito K. K. on one side and the islanders on the other and the dispute hampering the business start of the new company was settled. Accordingly, the islanders withdrew the petitions filed with the authorities concerned in opposition to the new company's coming into possession of the islands, and a memorandum consisting of 25 articles was interchanged in Tokyo between the representatives of the company and islanders on September 18, 1916. Thereupon the islands were actually placed under the management of the company and the tenant-land regulations and those governing windbreaks were established.

The contract for the transfer of islands was finally concluded between President of the Toyo Seito K. K. Fujitaro Shimosaka and Representative of Tamaki & Co., Sumi Tamaki, but prior to it, a provisional contract was concluded, with Tamaki & Co., Suzuki & Co., and the Toyo Seito K. K. participating therein as parties referred to as A, B, and C respectively.

The main points of the provisional contract are as follows:

1. A shall sell to C the objects listed in the attached inventory at the price of ¥ 150,000 (One-hundred fifty-thousand Yen).

2. A shall transfer to B not later than the end of April, 1916, the right to use the land possessed on Minami and Kita Daito Islands (or ownership thereof in case it has been purchased from the Government), the reclamation work, and the right pertaining thereto with a letter of attorney for transfer attached. In consideration of these, B shall turn over to A 11,000 new shares of the Toyo Seito K. K. paid up to ¥20 each. However, C shall see that the payment of ¥7.50 be made for each of the above shares not later than July 31, this year and B shall hold itself responsible for the payment.

MEMORANDUM

1. The farming settlers of Minami Daito Island (excluding the hired laborers; hereinafter referred to as the Islanders) shall be responsible to the Toyo Seito K. K. (hereinafter referred to as the Company) faithfully to abide by agreements reached between the Islanders and Tamaki & Co. as well as instructions and orders given by the latter and the established customs on Minami Daito Island unless they conflict with this Memorandum.

2. The Company shall permit the Islanders to tenant the farmland now used by them for the period of twelve and a half years from now on as long as they reside on the island.

The above farmland shall include the land in grass allotted to the islanders by Tamaki & Co.

In case the Company finds it necessary to use the farmland for the construction of factories or railroads or for the business operation and public purposes and if appropriate substitute lots are designated, the Islanders shall raise no objection to the scheme of the Company.

3. The Company shall agree continuously to grant the lease of the farm-land to the Islanders generation after generation in case the tenants in preceding paragraphs obey the instructions of the Company in respect to the cultivation of sugar-canes and do not lay the tenat-land waste nor do they commit any act of such a nature as to disturb the order of the island.

4. The tenant-land may be transferred among the Islanders subject to the approval of the Company.

5. In case the islanders cultivate sugar-canes, grains, and vegetables in areas not exceeding ten per cent (10%) of the tenant-land mentioned above, no farm-rent shall be charged for that part of land.

6. With regard to the tenant-land other than that mentioned in the preceding paragraph, the Islanders shall obey all the instructions of the Company pertaining to the selection of kinds of crops to be planted and also to the methods of cultivation and fertilization.

7. The farm-rent shall be calculated on the following basis:

A. In case the Islanders have produced sugar with all their harvested sugar-canes by the old method at their own expense, after all expenses and charges incurred by the Company in connection with the sale of sugar are deducted from the proceeds, seventy per cent (70%) of the remainder shall become the gain of tenants and thirty per cent (30%) shall go to the Company.

At the end of each business year, however, the Company shall make public the detailed account of payment of the above-mentioned expenditure together with the detailed statement on the proceeds from the sale of the produced sugar and shall pay the gain due to the Islanders immediately.

B. In case the Company has installed new sugar-manufacturing machines and purchases sugar-canes from the Islanders, seventy per cent (70%) of the harvested sugar-canes shall go to the tenants and thirty per cent (30%) to the Company.

The purchase price of sugar-canes shall be calculated at such a rate as to enable the Islanders to earn net profits greater than those earned in the past, by conducting, in the first place, investigations as to the profits earned by the Islanders under the arrangements given under A ever since the Island was opened to settlers and the expenses incurred by the Company for the production of sugar.

However, it is necessary to invite the opinions of representatives of the Islanders.

8. When the Company is authorized to purchase land from the Government, the Company shall transfer to the present occupants without charge the titles of homesteads occupied by them and in the cases wherein homesteads are narrow, these shall be extended appropriately.

9. In case sugar-manufacturing instruments and machines owned by the Islanders have become useless as a result of the installation of new machines by the Company, the Company shall purchase such instruments and machines of the Islanders at such prices as the Company considers reasonable, which are to be fixed with due regard to the original purchase prices, the number of years after the purchase, and the period of use, and the sugar-manufacturing sheds, horses and cattle of the Islanders shall also be purchased by the Company.

10. The Company shall accommodate the Islanders with loans as far as the circumstances permit up to the amount considered to be reasonable when the Islanders are in need of farming funds or the money to meet the urgent demand, for instance, in the case of sickness.

11. The Company shall help the Islanders, by measures considered to be adequate by the Company, in respect to the improvement of seedlings, supply of fertilizer, prevention and extermination of noxious insects, facilitation of irrigation, and also to any other agricultural reforms.

12. The Islanders may freely take mud from marshy places to use as fertilizer. However, the Islanders shall follow the instructions of the Company in regard to the area where mud may be taken and the measure of taking it.

13. In case the Islanders can have almost no income owing to natural calamity, the Company shall take adequate relief measures at its own discretion.

14. The Company shall supply daily necessities to the Islanders at cost.

15. In case there are persons, among the Islanders, who desire to engage in honest business such as sale of daily necessities, the Company shall give permission therefor.

16. With regard to the construction of schools and hospitals and the laying out of roads and tracks, as well as the providing of other public facilities, the plans shall be carried out to the completion by following the policy adopted in the past.

17. Steps shall be taken as soon as possible to set up wireless equipment on the island so as to put the wireless station into motion.

18. The Islanders may hire at will laborers for farming and sugar-production individually, but in case the hire of such laborers is entrusted to the Company as a result of consultations among the Islanders, the Company shall take the trouble of hiring the laborers for the Islanders. However, the Islanders shall fix the wages for laborers by consultation among them.

19. After the merger, it shall be the policy of the Company continuously to employ the existing staff members of Tamaki & Co. as far as the circumstances permit.

20. It shall also be the policy of the Company continuously to hire members of the Longshoremen's Association.

21. In case there are persons thrown out of employment after the merger, the Company shall take appropriate measures to relieve the unemployed.

22. With regard to trees standing on tenant-land, the tenants shall be permitted to fell and use them unless it is considered necessary to keep such trees as they are for purposes of public safety, and windbreaking as well as for other public purposes.

23. The Islanders shall be permitted freely to gather "adamba" (leaves for making hats) unless the retention of such leaves is considered necessary for public safety, windbreaking or other public purposes.

24. As regards the revision of the foregoing items and the adoption and change of things having important bearings on the interests of the Islanders, the Company shall consult with representatives of the Islanders.

25. In respect to Mr. Hanuemon Tamaki, "Director of Daito Islands", the Company shall make efforts to arrange things profitable for him as far as the circumstances permit.

This Memorandum has been prepared in duplicate, and the Company and the representative of the Islanders shall keep one copy each.

September 18, 1916.

Tenant-Land Regulations

Chapter I
General Rules

Article 1. The Company shall make these Regulations in accordance with the Memorandum of September 18, 1916, in order to enhance the benefit and welfare of the residents of the Island.

Article 2. In these Regulations the Islanders shall mean those who have come to the Islands with the intention of settle down here and who are faithfully engaged in farming with land allotted to them for that purpose.

In case any Islander has left the Islands or entered the Government service or has joined the Company, he shall be disqualified as an Islander. However, he may transfer his tenant-right to any other Islander within two months after the arising of the cause, for which he has been disqualified as an Islander, unless he violates Article 5 of these Regulations.

Chapter II
Tenant-Right

Article 3. After the completion of land survey, the Company shall prepare a detailed land ledger and map and shall register in the ledger the tenant-land of Islanders, issuing to the tenants the tenant-right certificate.

Article 4. Even in the case of the land under the preceding article, when the tenant-land of any Islander has been nationalized or designated as a site for the Government or public use, the Company shall lease a suitable substitute lot to the tenant concerned in so far as the circumstances permit.

Article 5. No transfer of the tenant-right shall be permitted except in the following cases:

a. When any Islander who has the tenant-right died, and his heir-at-law pledges to the Company that he will reside on the Island and engage in farming.

b. When any Islander who has the tenant-right has retired from active life, and his heir-at-law pledges to the Company that he will reside on the Island and engage in farming.

c. When any Islander with allotted land, who has lived on the Island not less than three full years and has made a pretty good record by engaging in sugar production or sugar-cane cultivation, intends to transfer his tenant-right to any other Islander.

In this case the transferee is required to pledge to the Company that he will settle down on the Island to cultivate sugar-canes and will hold himself liable for the debts of the transferer, if any, so as to give no trouble to the Company.

d. When the Company considers in particular cases that he the transfer of the tenant-right is necessary.

Article 6. Any Islander who comes under any one of the preceding article, shall apply immediately for the Company's approval for the transfer of his tenant-right when necessity arises, by stating the reasons for the transfer.

Article 7. In case any Islander has transferred his tenant-right under circumstances not coming under the provisions in Article 5 or without going through the formalities stipulated under Article 6, the Company shall forfeit the tenant-right, thus causing the both parties to such transfer to lose the tenant-right. In the case of those who have transferred their tenant-right in the past, this article shall have application to them on and after January 1, 1917, unless they go through the formalities under Article 6 not later than the end of December, 1916.

Article 8. The Company shall forfeit the tenant-right of those who come under any one of the following items:

a. When any tenant-farmer disobeys instructions and orders given by the Company, pertaining to the cultivation of sugar-canes, and lays his tenant-land waste.

b. In case any tenant-farmer has been absent from the Island more than one full year after he left here on a visit to his native place.

c. When any tenant-farmer has left the Island without going through due formalities.

Article 9. No tenant-right shall be mortgaged or pledged without approval of the Company and tenant-right shall be forfeited in case of violation of this article.

Chapter III

Reclamation of Waste Land

Article 10. Those who have got the allocation of land, shall reclaim the land in the following manner and undertake the cultivation of sugar-canes:

a. Not less than one-fourth of the total area of the allocated land shall be reclaimed within six months from the day of allocation.

Should it be impossible to carry out the reclamation prescribed in the preceding paragraph owing to unfavourable weather conditions, the tenant concerned is required to apply for the Company's approval for the delay in work, by stating the reasons therefor.

b. Within six months after the completion of the reclamation work under the preceding item, not less than two-thirds of the total area shall be reclaimed and in a space not less than one-third of the total area sugar-canes shall be planted.

c. Within two full years after the allocation of land, sugar-canes shall be planted in a space not less than nine-tenths of the total area.

d. With regard to the land allocated exclusively for the cultivation of vegetables, vegetables shall be planted in such a manner as provided under the preceding three items.

Article 11. In case any tenant has failed to carry out the reclamation and cultivation provided under the preceding article, the Company may withdraw all or part of the land allocated to such tenant.

Article 12. Those who have got the allocation of land after July, 1916, shall give the Company a written pledge for the reclamation of allocated land before they take up the work of reclamation.

Article 13. The tenants who got the allocation of farmland before July 1, 1916, and who have not yet reclaimed it fully, shall be required to complete the reclamation and the planting of sugar-canes not later than March, 1917. However, as regards the forest area to be used exclusively for supply of firewood, an investigation shall be made beforehand.

Article 14. With regard to those who have violated the preceding article, the Company may take away the unreclaimed part of their land.

Chapter IV

Farming

Article 15. With regard to the selection of crops to be raised and the method of farming on the tenant-land, the tenants shall act in accordance with instructions and orders of the Company.

Article 16. The farm-rent shall be fixed on the basis of the Memorandum of September 18, 1916.

Article 17. In case a part of the tenant-land not exceeding ten per cent (10%) of the total area is planted with sugar-canes and vegetables, no farm-rent shall be charged for that part.

Article 18. In case any Islander who tenant farmland not less than five tanbu (some 1 acre) in area, plants a part exceeding ten per cent (10%) of the total area with sugar-canes and vegetables, he shall pay a rent of ¥3 (three Yen) for every tanbu of the portion exceeding ten per cent (10%) of the total area.

No farm-rent, however, shall be charged for the farmland less than five tanbu in area planted with vegetables.

Article 19. In the case of violation of Article 15 or non-payment of the farm-rent, the tenant-land may be withdrawn.

Chapter V

Obligation

Article 20. No Islanders who have the tenant-right can evade his duty to pay various levies to be made, for instance, those for household and for sugar-canes and sugar produced by them.

November 16, 1916.

Daito Island Sugar Manufactory,

Toyo Seito K. K.

In respect to the Tenant-Land Regulations, under-mentioned amendments shall be made.

May 21, 1918.

Daito Islands Sugar Manufactory

Article 5:

The following paragraph shall be added after d:

e. In case the Company considers the remaining area to be too small when the transfer of tenant-land is intended, the transfer shall not be permitted unless all the remaining area of the farm-land and the homestead are transferred together with the portion of the farm-land originally intended for transfer.

Any person who has transferred all his tenant-land, shall be required to leave the Island by the earliest ship available.

Article 6:

The following paragraph shall be added:

In case application is made for the Company's approval for the transfer of tenant-right, the application shall be accompanied by the following sums of money in the form of fee and the same procedure shall be required in the case of transfer of the homestead:

One Yen (¥ 1) for every chobu (some 2 acres) of the land, the tenant-right for which is to be transferred.

Fees for fractions not less than One se (some 4 poles) shall be calculated at the rate stipulated above, and the land less than one se shall be treated as one se.

Article 8:

The following two paragraphes shall be added after c:

d. When any contract of such a nature as to affect the tenant-right has been concluded with a third party without approval of the Company.

e. Any tenant-farmer who has allowed any other person subtenancy or contract farming without obtaining the approval of the Company.

An Account of Merger of Toyo Seito K. K.

Into Dai Nihon Seito K. K.

a. Details concerning the book, from which quotation is made:

Title of book:

History of Nitto in the Last 25 Years

Author:

Yujiro Nishihara, Investigation Section,
Dai Nihon Seito K. K.

Time of Publication:

April 27, 1934.

Page of the book where descriptions are made on subject matter : Page 153

b. Quotation:

54: Merger of Toyo Seito K. K. (into Dai Nihon Seito K. K.) ---Page 150

At the time of financial crisis of 1927, the Toyo Seito K. K. was in the danger of being thrown into difficulty of maintenance and President Kyoroku Yamanari of the company was compelled to take measures to cope with this situation. Although he did not think it hopeless to tide over the difficult situation, he steered the safe course, being of opinion that it was unwise for a man like himself who had not been a sugar-manufacturer from the beginning, to try to find a temporary remedy as there was a fear of causing damage to the interests of shareholders.

He was, therefore, determined to take a drastic measure to tide the company over the crisis. Consequently, he decided to sell the Nansei (with the capacity of 1,000 tons) and the Ujuria (with the capacity of 750 tons) manufactories to the Meiji Seito K. K. (the Meiji Sugar Manufacturing Co., Ltd.) to pay debts to Suzuki & Co. and others and to merge the Toyo Seito K. K., by retaining the remaining assets, with the Dai Nihon Seito. The last-mentioned two companies called extraordinary general-meetings of shareholders respectively on July 29, 1927, and at these meetings the merger of the two companies was adopted. The full text of the contract for merger is as follows:

Contract

In order to merger the Toyo Seito K. K. (hereinafter referred to as A Company) with the Dai Nihon Seito K. K. (hereinafter referred to as B Company) the following provisional contract has been concluded between the two parties.

Article 1. A and B Companies shall be combined with the latter dissolved and the former retained.

Article 2. A Company shall revise its Articles of Association and increase its capital of Twenty-four million one-hundred sixty-six thousand six-hundred Yen (¥ 24,166,600) and shares of Four-hundred eighty-three thousand three-hundred thirty-two (483,332) to Fifty-one million four-hundred/sixteen thousand six-hundred Yen (¥ 51,416,600), and to One-million twenty-eight thousand three hundred twenty-two (1,028,322) respectively.

Article 3. A Company shall issue two additional shares under the preceding article, paid equally by A and B Companies, against every three old shares of B Company (¥ 50 each in face value, fully paid up) and against every three new shares of that Company (¥ 50 each in face value, paid put to ¥ 20) and shall cause the shareholders of B Company come into possession of them. With the consent of Mr. Kyoroku Yamari obtained, the above-mentioned additional shares of A Company shall not be alloted in respect to two shares of B Company (¥ 50 each, fully paid up) possessed by him.

In case there are shareholders of B Company who have failed to deliver the shares in their possession, the representatives of A and B Companies shall designate suitably the persons to subsccibe for the additional shares to be allotted to the holders of the undelivered shares of the B Company and shall sell these additional shares at auction after the completion of the merger to deliver the proceeds thereof to the original shareholders of B Company.

The preceding paragraph shall have modified application to odd shares (of B Company) which have resulted from the allocation of additional shares of A Company against the shares of B Company as stipulated under the first paragraph.

Article 4. After the adoption of the merger at the respective general meetings of shareholders of A and B Companies, the latter shall transfer to the former its (the latter's) rights of business, existing property, and other rights and obligations as soon as possible and A Company shall accept them.

Article 5. Regardless of the time of the completion of merger, B Company shall withhold the payment, to its shareholders, the profits coming within the accounting term beginning from April 1 this year, and A Company shall take over these profits fully and pay for the additional shares issued as a result of the merger of the two Companies, according to the amounts paid up, the sums worked out at the rate same as that used for the dividends on shares coming within the accounting term beginning from May 1 this year.

Article 6. After the conclusion of this contract, B Company shall make no ordinary business deal nor shall it take any action which will have important effects upon the condition of its property unless the consent of A Company is obtained.

A Company shall indorse the interim contract of July 11, 1927 concluded between B Company and the purchaser pertaining to the disposition of the Nansei and Ujurin Sugar Manufactories and The supplementary contract.

Article 7. With regard to the matters necessary for carrying out the merger in accordance with the provisions of this contract, the representatives of A and B Companies shall make an arrangement suitably.

Article 8. A and B Companies shall call their respective extraordinary general meetings of shareholders on July 29, 1927 for the consideration of this contract so as to obtain the approval of shareholders. This contract shall naturally become null and void in case the general

meetings of shareholders of both A and B Companies or either of them withhold the approval for the merger under this contract.

In witness of the contract concluded, the parties thereto shall keep one copy each of the contract with the copies made in duplicate.

July 12, 1927.

Raita Fujiyama

Director and President,
Dai Nihon Seito K. K.

Kyoroku Yamanari

Director and President,
Toyo Seito K. K.

Note: As will be seen from the above, the merger has been effected on the condition of accepting three shares of the Toyo Seito K. K. against two shares of our company.

History of Minami and Kita
Daito Islands

Minami and Kita Daito Islands were included in the Japanese territory, in August, 1885, but these were then literally uninhabited island covered by virgin forests left unexploited from time immemorial. However, as it was later ascertained that fresh-water was available on the island, the Okinawa Prefectural Government encouraged ever since the settling in these places aiming at their development and persons desiring to settle there appeared gradually. Nevertheless, all the plans in this connection were frustrated, those who attempted to travel there failed either to reach the destination or to land on the islands. In 1900 Hanzaemon Tamaki from Hachijo Island succeeded finally in settling there.

Marked developments of islands
in past years are as follows:

1902: Production of muscovado for the first time. Construction of a foot-sugar manufactory with steam-engine of 50 hp. Increase of settlers to 220.

1910: Commencement of exploitation of phosphate mines on Kita Daito Island.

1916: The islands was placed under the management of the Toyo Seito K. K. and the full-scale development of the islands was commenced. The residents there numbered 3,500.

1917: Construction of a new type centrifugal sugar manufactory was commenced, and it began to work upon completion of construction the following year. The productive capacity was 500 tons a day.

In this year all the land and superficies of Minami and Kita Daito Islands were sold to the Toyo Seito K. K. by the Government.

1918: An alcohol distillery with the capacity of 12 koku a day was constructed on Minami Daito Island.

1919: A phosphate mining office was constructed on Kita Daito Island and mining and shipping of phosphate was commenced.

1927: As a result of the merger of Toyo Seito K. K. with Dai Nihon Seito K. K. the islands came into the possession of the Dai Nihon Seito K. K.

The population of the two islands were: 4,500 on Minami Daito Island, 2,300 on Kita Daito Island. As to the production of sugar, centrifugal sugar was produced to the amount of 120,000 piculs (7,200 tons).

In later years, the Dai Nihon Seito K. K. effected the land reform, improvement of factories and subsidiary equipment, guidance in technique, and thorough renovation of medical services, educational and social welfare facilities, bringing about a complete change of conditions on the islands.

1944-1945: The communications with Japan proper were completely cut off and industrial operations on the islands were brought to a standstill for the time being.

The islands were then subjected to air-raids and bombardment from the sea resulting in serious damages to factory buildings, various installations, dwelling houses, etc.

1945: The islands were placed under the administration of the U. S. Military Government in Okinawa.

Note: Dates mentioned in the note of General Headquarters SCAP of September 14, 1951, are incorrect.

September, 1951.

List of Papers Submitted to the U. S. Military Government pertaining to Minami and Kita Daito Islands

Papers submitted to U. S.

Military Government

(Copy)

--------Daito Island Sugar Manufactory ---

A. Papers pertaining to requisitioned property.

1. Inventory of fixed assets and others

General inventory of assets turned over, under date of June 11, 1946.

List of assets under date of June 11, 1946.

Inventory of assets (before war's end) as of the end of January, 1945.

List of deletions from assets, between March, 1945, and the end of January, 1946.

Inventory of fixed assets accompanied by statement on repairs done to damaged buildings up to June 11, 1946.

2. Report on goods in stock as of June 11, 1946

List of goods in stock as of June 11, 1946.

Amount of centrifugal white sugar kept by the Company at the request of the Japanese Navy.

Detailed list of goods in stock as of June 11, 1946.

Detailed list of goods in stock (non-ledger assets) as of June 11, 1946.

Report on materials in stock as of August, 1946.

Details of articles transferred by the Army as of June 11, 1946.

B. Papers showing results of inquiries

1. Papers pertaining to removal of goods and also to land and others

Detailed list of goods imported, exported and sold (from the war's end till the time of requisition), August, 1945 -- June, 1946.

Report on partition of land as of June 11, 1946.

Report on the right to tenant land as of June 11, 1946.

Report on requisitioned property (islanders' private property) as of June 11, 1946.

C. Papers showing results of investigation concerning agricultural association

Plan of forming the Minami Daito Island Agricultural Association and its program of manufacturing muscovado.

Papers submitted to U. S. Military Government

----Kita Daito Island Branch Office ---

Inventory of fixed assets as of the end of March, 1945.

Report on imported and exported goods since August, 1945

Balance sheet and statement of profit and loss as of the end of February, 1946.

Report on tons of ores shipped, amounts of salaries and wages paid and costs of miscellaneous articles required for the Office, since January, 1946.

Inventory of fixed assets as of June, 1946.

List of remainder of goods in stock as of June 11, 1946.

Detailed list of remainder of goods f forsale as of June 11, 1946.

Detailed list of articles transferred by the Japanese Army as of June 11, 1946.

Report on assessed value of lumber on the island as of June 11, 1946.

Balance sheet and other papers as of June 15, 1946.

管理局 総務課長

二六官第二五〇二号

昭和二十六年十月二十七日

外務事務次官 殿

農林事務次官 山添利

第1927號 26.10.29 管総

農林省

南・北大東島の土地払下に関する資料提供方依頼に関する件

昭和二十六年九月二十二日附管総第九二号をもつて申越しのこの件については国有林野台帳原本に玉置商会に払下げた旨記載されているので右台帳写を送付する。

(統計印刷印行)

島尻郡大東島村大字 —

国有林野台帳字

字	地番	地目	段別	事故摘要
南大東島	調査済一	山林	三〇七一町七三一〇	大正六年十二月十二日指甲第六五一六號ニテ玉置商會へ払下ニ付削除 七年三月廿日
北大東島	調査済二	仝	一六六九七三一〇	大正六年十二月十二日指甲第六五一六號ニテ玉置商會へ払下ニ付削除 七年三月廿日

削除 削除

右國有林野台帳原本に依り謄寫す

昭和二十六年十月十二日

熊本営林局

熊本營林局

連絡局
連絡課長

懸案

	発信用	執務用	
主信	/	/	2
附属 甲	/	一	/
附属 乙	/	一	/
附属 丙			
附属 丁			
備考			

タイプ不要

文書課長

文書課発送日

主管 管理局長

主任 総務課長

浄書

昭和26年11月　日起草

正校（原稿）　（浄書）

第 FOM No. 2442 (C9) 号　昭和 15 November 1951 年　月　日附

附属 あり

受信人名 総司令部 日本人連絡部

先付送写

発信人名 管理局長

件名 南北大東島に於ける土地所有権及び借地権に関する記録及び資料提供に関する件

記録件名

別添の通り

信　案

記帳

外務省

11

昭和廿六年二月拾五日

To : General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers.

(Atten: Japanese Liaison Section)

From : Ministry of Foreign Affairs.

Subject : Record and Information regarding Land Ownership and Lease in the Region of Kita and Minami Daito Islands.

FOM No. 2442(CG)

15 ~~November 8~~, 1951
~~6 November 1951~~

1. Reference: Memorundam of Japanese Liaison Section, ~~General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers,~~ ~~dated~~ September 14, 1951, subject: Request for Information.

2. The Ministry of Foreign Affairs hereby

公信案　　　　外務省

received from the Ministry of Agriculture and Forestry

submits a copy of the National Forest Ledger

which shows

~~showing~~ the original grant by the Japanese Government

to the Tamaki & Co. in the region of Minami and

Kita Daito Islands and data concerning land

ownership and lease in the said region received

from ~~the Ministry of Agriculture and Forestry and~~

Nihon

the Dai ~~Nippon~~ Seito K.K. ~~respectively~~, in accordance

with reference memorundum as inclosed herewith.

FOR THE MINISTER:

(Eiji Wajima)

Chief, Bureau of Control,

Ministry of Foreign Affairs.

2 Incls.

1. Copy of the National Forest Ledger prepared by the Kumamoto Regional Forestry Office, Ministry of Agriculture and Forestry.

2. Data concerning Land Ownership and Lease in the Region of Kita and Minami Daito Islands received from Dai ~~Nippon~~ Nihon Seito K.K.

昭和廿六年十二月拾五日

大東亜関係書類

外　務　省
東京都千代田区霞ケ関2丁目2番地
電話 霞ケ関（581）3351番

一九五一年~~六~~七月

南大東村長　當真德佐

村民代表　奥山勝利

〃　〃　〃　菊池渡

〃　〃　〃　伊佐栄久

青年代表　奥山千代三郎

社會大衆党委員長　西村良一郎

~~沖縄群島知事~~平良辰雄殿

陳情書

戦前、日本でも類例のない特殊な島として、元、日糖会社によって經営せられていた南大東島が、戦後沖縄群島政府管下南大東村として発足して以来、村民は、他の市町村と同様に、群島住民としての義務を履行すると共に権利も与えられ、群島政府の指示する戦後復興の線に沿うて村の産業、經済の復興に邁進して来たのであって、特に南大東村の基本問題である土地所有権に就いては、村民は等しく、當然、その時期の到来するものとして、期待していたのであります。ところが沖縄に於ては既に土地所有権が認定された今日、独り南大東村の土地は管理財産としての性格のまゝ、何等の指示もない為、村民の不安動揺は尠からず

村勢振興計画樹立の上にも、支障を来すばかりでなく、村民の精神生活は萎靡沈滞し、村自治運営の各面に安定性を欠き、又最近の新聞記事、南大東村の土地は、元、日糖会社に所有権が確認されたと云々によって愈々、村民の不安その極に達し、離村、離農する者が多くなり、只でさえ人口誘致をせねばならぬ南大東村の現状から見て、近き将来に於て、憂慮すべき状態に立ち到ることが予想されますので、左記大東島の開拓以来の經緯を勘案せられ、孤島民の生活権擁護と、土地を愛する住民永遠の福祉の為、御理解ある政治措置によって土地所有権を認定下さる様、全村民連署の上、村長外村民代表を以て陳情する次苐であります。

記

南大東島開拓以来現在に至る經緯

洋上の一点、大東島の存在が、明治の中期に於て廣く世人に知られるや、明治二十五年頃から、大東島の開拓に志す者が、雨後の筍の様に現われたのであるが、島の地勢の険峻なることやその他の悪條件で何れも空しい計画のみに終っていた。たまたま稀代の開拓王、玉置半右衛门が最後に現れて、此の至難にして崇高なる開拓の偉業を試みようとした。彼は明治三十二年より向う三十ケ年間の貸下許可を受けるや先づ郷里八丈島で開拓移住民の募集に乗り出し、その條件として開拓地は向う三十ケ年の貸下げ期間を經過したら、開拓民各自の所有に歸することを約束した。

彼等の中には、前人未踏の無人島の冒険的開拓のことで、尠からざる危惧の念をもつ者もあったが、永住の地歩を築き得る條件であればと、開拓精神の横溢した當時の逞しい若者達は勇躍應募し、万里の波濤を乗り越え、明治三十三年南大東島に足跡を印した。

その頃、人の世を離れて、伸びほうだいに伸びた原始林の中で彼等は、あらゆる不自由、困苦、飢餓と闘い乍ら、希望の斧を振い續けた。やがて過去幾千年顧みられなかった孤島の密林は遂次切り拓かれ、むくみ上る沃土は日を追うて展げられた。彼等の開拓者的満悦もさることながら、実に五十余年前の草分時代の此の苦闘が現在の南大東村の礎であったのであります。その後續々と八丈島や沖縄から移住する者が年を追うて増加し、その最盛期には人口五千を抱擁し得る島と化した。玉置半右衛門は明治三十四年これらの開拓移住者に対し、三十ケ年の貸下期間經過後は所有權が認められる前提下に開拓地を耕作割當し、所謂玉置商会の經營する大東島の事業は着々と進められたのであるが、惜しむらくは偉大なる開拓王、玉置氏の歿するに及び、その長男が継承し、事業運営に當り、間もなく事業困難に陥るや、玉置時代十七年目の大正五年三月東洋製糖に合併契約が締結され、開拓地全部が移譲される運命となった。

働く以外何の享樂も、慰安も知らない純朴な開拓農民達とは言え、予期しない此の時代の変遷に対しては唯驚くばかりで、東洋製糖の經営に対する危惧から不安恐怖の念に駆られ対策に悶々とするうち、東洋製糖は時をかさず、仝年六月、僅かに宅地を残す以外の土地並に地上物全部を、国有林野不用存置規定に基いて拂下げを企図したのである。此の恐るべき権利剝奪のたくらみに対し、陳情書を官に出して保護を、求めると同時に、共進会なる農民団体を組織して、会社との接衝をしたのであるが、利害関係に対する二十五ヶ條の覚書条文を取り換わしたのみで、心にもない妥協をせざるの已むなきに至った。

泣く泣くも長いものには巻かれるの余儀なきに至った當時の農民の心情察するに余りあるものがある。

自らの精魂を打ち込んで決死的開拓を敢行した此の島に優越の地歩を占め得ないまゝに幾星霜は過ぎ去ったが、祖先傳來の此の土地に対する希望と愛着は現在に於ても毫も変らないのであります。

斯くして東洋製糖の事業經営も程遠からずして事業上の礎鉄を生じ昭和二年には日糖に合併され、資本的勢力は島を蔽うて愈々強烈となり、昭和十三年には、東洋製糖時代に申訳的に与えられた宅地の権利までも

会社対赤字棒引きの名に於て返還させられ、手も足ももぎ取られたも同然の無力の民となった。日糖時代は、大東島の最盛期と称せられる頃であるが、五千に垂ん〱とする人口を擁し乍ら村制もしかれず、代議士の選挙権はあるが、縣会議員の選挙権はないという日本国中でも類例のない島として、資本の独占重圧下に独特な封建社会が現出していた。絶海の孤島であるために、當時の中央集権的政治が、此の虐げられた庶民の上に保護政策のあろう筈もなく忘れられたこの島は、飽くなき独占資本の猛威の下に放任されていたのである。

此の奴隷的な社会にも会社中心の文化の芽生えはあっても、それは必ずしも庶民文化ではなく、働けど〱一向樂にならない懐柔政策として常に島民の上に働きかけていた。

蔗作の強制、労働者の酷使、子弟進学の制圧等、小数の支配層と多数の被支配層の間には人権蹂躙がくりかえされ、假りに理非を言おうものなら、異端者として無下に退島命令等と厳しい致命的仕置をされた。言はしむべからず、依らしむべしの徹底した政策は、玉置時代から日糖に至る三世代の後半期に於ては愈々露骨に現われていた。

自らの心血を注いで開拓した土地であり乍ら、奴隷的存在に追いやられた農民達は、開拓當時の逞しい希望は、

製糖その他の施設をして村經済の維持に努めて來た。

時勢の落ちつくと共に、たま〳〵沖縄に於ける糖業復興の氣運が熟するに及び、宮城仁四郎氏の計画によって日糖の残存施設を改造して、大東糖業の復興が企図されたが、村民の頭に固執する、元日糖時代の束縛された印象で、最初の程は、従來の二の舞を踏んではとの懸念もあったが、その計画が農資一体の性格であり、蔗作者自身も株を持ち、蔗作も農民の自由を條件とし、共存共栄のあり方に於て、村民も一決して株式会社の建設を見、去る製糖期から、相當の規模を持つ施設で、最初の製糖を終了した。

此の度の日糖の企業計画の為の調査についても、本村の基本問題である土地権利の獲得後、又沖縄に於ける外資導入の方途が明確になり、新しい條件が附されるならば、村民は敢えてこれを拒まうとするものでない。

現在の南大東島は適正なる農家入植と、開発に要する資本の導入が急務と考えられるが、現住民が安心して農業生産に従事すると共に農家入植の可能な條件が与えられてのみ、今後の大東に於ける如何なる企業も成立するであらうからである。

大東島に來遊する人々が異口同音に第二のハワイと評するが如く、豊富な土地資源を持ち乍ら、島の中央部湿地帯を中心に猛威を逞しうする悪草(ハエキビ)の蔓延するまゝに拱手傍観しなければならぬ程人口労務が拂底している。

沖縄の人口密度、土地狭隘の状況からしても従前の永小作権を所有権に認定すると同時に、入植可能な條件を与えて残余の土地に移住民を招來することは、沖縄の人口調整の上にも稗益することが多いと考えられる。
尚従來のまゝの小作権では、土地愛護の精神は地を拂い、還元することを知らない掠奪農法が続けられ、地力は遠からずして減耗し、遂には不毛地に化するであろうということは、開拓當初と現在の地味を比較しても充分に立證出來ることである。
日本に於ても既に農地調整法による小作制度の改革が行われ、沖縄に於ても生活の基本権利たる土地の所有権が明らかにされ、世を挙げて人権尊重の強調される今日、假りにも一資本家に此の島の権利が委ねられるなら、離村、離農等の悲しむべき社会問題が惹起されることは火を見るより明らかであり、私達南大東の全村民は、土地を愛する者に土地を与えよの原則を強調し、開拓以來今日迄の
前述の經緯に於て、當然土地所有権は認められるべき性質のものであることを確信し、熱願を捧げるものであります。

北大東村

陳情書

北大東島開拓以來現在に至る經緯

洋上の島嶼大東島の存在が明治中期に於て廣く世人に知られるや明治二十五年頃から大東島の開拓に志す者が雨後の筍の様に現われたのであるが島の地勢の険峻なることやその他の悪條件で何れも空しい計画のみに終っていたたまたま稀代の開拓王・玉置半右衛門が最後に現れて此の至難にして崇高なる開拓の偉業を試みようとした。

彼は明治三十二年より向う三十ヶ年間の貸下許可を受けるや先づ郷里八丈島で開拓移民の募集に乘り出し、その條件として開拓地は向う三十ヶ年の貸下げ期間を経過したら開拓民各自の所有に歸することを約束した。

彼等の中には、前人未踏の無人島の冒険的開拓のことで尠からざる危惧の念をもつ者もあったが、永住の地歩を築き得る條件であればと開拓精神の横溢した當時の逞しい若者達は勇躍應募し、万里の波濤を乘り越え明治三十三年南大東島と共に北大東島に足跡を印した。

その頃、人の世を離れて伸びほうだいに伸びた原始林の中で彼等は、ありゆる不自由、困苦、飢餓と闘い乍ら、希望の、斧を振い続けた。やがて過去幾千年顧みられなかった孤島の密林は遂次切り拓かれ、むくみ上る沃土は日を追うて展げられた。彼等の開拓者的満悦もさることながら、実に五十余年前の草分時代の此の苦闘が現在の北大東村の礎であったのであります。その後續々と八丈島や沖縄から移住する者が年を追うて増加し、その最盛期には人口五千を抱擁し得る島と化した。玉置半右衛門は明治三十四年、これらの開拓移住者に対し三十ヶ年の貸下期間經過後は所有権が認められる前提下に開拓地を耕作割當し、所謂玉置商會の経営する大東島の事業は着々と進められたのであるが惜しむらくは偉大なる開拓王、玉置氏の歿するに及び、その長男が継承し、事業運営に當り間もなく事業困難に陥るや玉置時代十七年目の大正五年三月東洋製糖に合併契約が締結され開拓地全部が移譲される運命となった。

働く以外何の享樂も慰安も知らない純朴な開拓農民達とは言え予期しない此の時代の変遷に対しては唖驚くばかりで東洋製糖の経営に対する危惧から不安恐怖

林政澤

家有林伊閔

り念に駆られ対策に悶々とするうち、東洋製糖は時をかさず
（大五）仝年六月僅かに宅地を残す以外の土地並に地上物全部を國
有林野不用存置規定に基いて拂下げを企図したのである
此の恐るべき権利剥奪のたくらみに対し、陳情書を
官に出して保護を求めると同時に共進會なる農民団体
を組織して會社との接衝をしたのであるが利害関係に
対する二十五ケ條の覚書条文を取り換わしたのみで
心にもない妥協をせざるの已むなきに至った。
泣く泣くも長いものには巻かれるの余儀なきに至った當時
の農民の心情察するに余りあるものがある
自らの精魂を打ち込んで決死的開拓を敢行した此の島に
優越の地歩を占め得ないまゝに幾星霜は過ぎ去ったが
祖先傳來の此の土地に対する、希望と愛着は現在に於
ても毫も変らないのであります。
斯くて東洋製糖の事業経営も程遠からずして事業上の
蹉跌を生じ昭和二年には日糖に合併され資本的勢力は
島を蔽うて愈々強烈となり昭和十三年（1938）には東洋製糖
時代に中試的に與えられた宅地の権利までも会社対赤
字棒引きの名に於て返還させられ、手も足ももぎ取られ
たも同然の無力の民となった。日糖時代は大東島の最盛

期と称せられる頃であるが五千に垂ん〱とする人口を擁し乍ら村制もしかれず代議士の選挙権はあるが縣會議員の選挙権はないという、日本國中でも類例のない島として資本の獨占重圧下に独特な封建社會が現出していた。絶海の孤島であるために當時の中央集權的政治が此の虐げられた庶民の上に保護政策のあろう筈もなく忘れられた、この島は飽くなき独占資本の猛威の下に放任されていたのである。此の奴隷的な社會にも会社中心の文化の芽生えはあっても、それは必ずしも庶民文化ではなく、働けど〱一向樂にならない懐柔政策として常に島民の上に働きかけていた。

「蔗作の強制」労働者の酷使、子弟進学の制圧等、小數の支配層と多數の被支配層の間には人権蹂躪がくりかえされ假りに理非を言おうものなら異端者として無下に退島命令等と厳しい致命的仕置をされた。言はしむべからず、依らしむべしの徹的した政策は玉置時代から白糖に至る三世代の後半期に於ては愈々露骨に現われていた。自らの心血を注いで開拓した土地でありながら奴隷的存在に追いやられた農民達は開拓當時の逞しい希望は微塵に砕かれ無気力の民として阿諛迎合の気風に変り果てやうとしていたのであります。當時の日本の時代相とはいえ

束縛された大東の過去の社会は筆舌につくし難いものがある此の様にして草分時代の強者達は大方物故し今尚生存する古稀を過ぎた白髪の老人が大東島の既往を眺めつゝ人権尊重を基底とする子や孫の時代を驚きと喜びの眼を以て迎えたのである

南北大東島は戰前日本製糖社の所有地として同社によつて経営せられていたが戰後沖縄民政府管下南北大東村として發足を見るに到り各々群島同称行政がしかるに及び村民は住民としての義務を履行すると共に権利が与えられ政府の指示による戰後復興の線に沿うて村産業経済の復興に邁進して來たのであり再村の基本問題とする土地所有権に就ては村民等しく憂ひ当然その時期の到來するものとして期待していたのであります。ところが沖縄群島に於ては既に土地所有権が認定されると言ふ、今日独り南北大東村全体の土地が管理財産としての性格の儘置れ居る事は村民の不安動揺尠からず当然であり村勢振興計画樹立の上にも支障を期たすばかりでなく村民の精神生活は萎靡沈滞し村自治運営の各面に安定性を欠き最近の新聞報道に依る南北大東村の土地が旧日本製糖社に所有権が確認された云々によつて愈々村民の不安

その極に達し離村離農する者が多くなり村民の永住観念日々薄なる現状で只でさえ人口誘致の必要性を感じて居る今日より見て土地の所有権の確認は村維持上薫億の急務であり現状の儘置る、事は住民自体に於て憂慮すべき、状態に立致る事が予想されますので左記大東島開拓以來の経緯の記録を推察せられ孤島民の生活権擁護と土地を愛する住民永遠の福祉の為、御理解ある措置によって土地所有権の認定下さる様、全村民連署の上村長外農民代表を以て陳情する次第であります

今次大戰によって米軍の占領下に入るや沖縄民政府創設と共に政府の管轄の下で村制がしかれ開拓以來半世紀間の重圧から解放された村民の喜びは自からの力で戰後復興の新たな希望に燃え樂土建設へと邁進して來ているのである。終戰直後解放された小鳥の様に自由を得た人々が働手を求めて島を引揚げたのも当然のなりゆきであった現在残存する千二百の村民は戰争前後で荒寮に帰した郷土を新しい希望によって打たてるべく玉置開拓精神を鼓吹しつゝ再建に邁進してゐる

北大東村は六百町歩の耕地と燐鉱山五百町歩の土地を

擁しながら人口僅かに千二百人の村で戦後燐鉱石の必要性に應じ軍政府の企図の元で沖縄政府により事業が運営されたのみで其の他村民自からの力を結集して辛うじて生る態勢を整え戦後の混乱期や統制経済の多難な時期を乗越え共同組合による小規模の製糖業が行なはれ製品加工、其の他燐鉱石搬出に依る労務費で以て村経済の維持に努めて来たのであるも一九五〇年一〇月の燐鉱事業の閉鎖は村住民に取つて大きな社会問題として其の再開に乗出すも所有権の持たざる村民の悲しさ自由に企業の條件を入れる事が出来得ざる今日経済の逼迫の為離村離農の状態は日を追ふに従つて増す現状にあり此の際の日糖調査團の企業計画調査は外資導入並に村経済復活からして村民は急速に事業開を念願するものであり縮命的経済の打開策の一端として喜ぶべきであるも從來の農隷的政策を捨て適正なる労働法に基づく措置を希望するも現住民が安心して農業或は燐鉱事業に従事すると共に農家入植の可能な條件や燐鉱從業員の労働條件を與えられてのみ今後の大東に於ける如何なる企業も成立するからであろうからである。

大東島に来遊する人々が異口同音に第二のハワイと評するが如く豊富な土地資源を持ち乍ら人工労務の払底や資源が埋れている事は獨り大東住民のみでなく沖縄群島住民の損失であり沖縄の人口密度、土地狭隘の状況からしても従前の小作権を所有権に働く人には土地を与へて尚残余の土地に移住民を招來することは沖縄の人口調整の上にも裨益することが多いと考えられ尚從來のまゝの小作権では土地愛護の精神は失はれ還元することを知らない掠奪農法並隷民としての存在が續けられ地力は遠からずして減耗し遂には不毛地に化するであろうといふことは開拓當初と現在の地味を比較しても充分に立證出來ることである

日本に於ても既に農地調整法に依る小作制度の改革が行われ沖縄に於ても生活の基本権利たる土地の所有権が明らかにされ世を挙げて人権尊重の強調される今日假りにも一資本家に此の島の権利が委ねられるなら離村、離農等の悲しむべき社会問題が惹起されることは火を見るより明らかであり私達北大東村民は土地を愛する者に土地を与えの原則を強調し開拓以來今日迄の前述の経緯に於て當然土地所有権は認められるべき性質のものであることを確信し熱願を捧げるものであります

島民陳述

会社の「枠」は總ての島民は会社の命令に從はせ会社の枠に対し意義申し立てなし命に從はぬ者は退島を命じ又何かの方法に依つて島より追放したものである黒糖は島民が製品にして製品を会社に委託販賣の方法をなして居た製品を集荷して日本内地に送り会社の利益を得る為に倉庫に積込価格の上るのを待倉敷料を島民に負担させ時には製品積出当時より安価で賣つたり又とけて密に成り品質が悪くて幾らも賣れなかつたとかで總ての経費を差引して潤益の七を島民三本が会社の割合で尚潤益の中には倉敷料其の他の経費を差引かれ残りを潤益計算になせる関係住民として幾ら製品を製つても楽にならないと言つた状態であつた。尚子弟進学の製庄等、小作人の家族より小学校卒へても進学の道を封じて沖縄本島、日本内地へ出るのも出来たけの手段を盡して島内で働かせる様な枠であつた。

小宮山伴太夫
大城幸太郎
親川松次郎
玉城權吉
沖山四郎
大沢庄太郎
大城久四郎
金城吉武
松本仁信
鬼塚不二
松田精一
大城留昌
大城久経
沖山定信
中本澄子
國場徳吉
松田幸吉
寺田藤太郎
沖山農作
伊波蒲太
伊波與長
金城道一

浅沼與之吉
森　祢平
宮城松丞
宮城松郎
與儀實喜
上間政一
古我知平昌
與儀実重
知花俊夫
金城賀成
金城賀牛
上原太郎
玉城武三
仲宗根吉章
上地完盛
具志堅與栄
富盛清二
松田善四郎
玉城忠信
平敷好源
知花門徳
仲村仙一

大城堅栄
桃原勇三郎
比嘉佐市
玉元清俊
森恭延
名嘉重太郎
玉城傳明
奥山揚之助
浅沼義雄
島田清三郎
金城仁徳
玉城半吉
仲宗根善行
山川宗永
多和田直栄
屋比久次郎
宮城ウト
名嘉岡本
仲里義秀
宮城繁成
名嘉蒲
仲里義雄

上間政忠
知念金造
比嘉源信
中村喜吉
親川吉盛
玉城傳四郎
沖山善二
笹本輝次
染井章
田港秀雄
棚原善盛
田港保善
宮里朝一
安慶名松栄
小浜徳仁
沖山光利
沖山考
染井幸信
山田耕造
沖山權之極
中童盛
松岡幸岩

仲村昌勝
沖山守身
平良武太
吉浜昌保
稲峯清四郎
宮城宜宗
宮城重三
前田光德
名嘉ナバ
島袋正春
仲地昌松
後當亀吉
仲里音吉
大峯幸清
福地文宗
平　信一

愛する者に土地を
政府、社大党動く
〃強力に軍と折衝する〃

〃土地を愛する者に土地を與えよ〃との南大東村々民の叫びはいたく各方面の同情をかつているが群島政府では軍に對し次のような陳情書を提出強力にその拂下げ方を折衝することになつた一方これらの陳情書は社大黨本部にも村みん側から提出され社大黨としても政府と協力單軍に大東に限らずこれに類似した土地の譲渡運動を展開することになつた軍への陳情要旨次の通り

大東村より土地の拂下げ方について陳情書が提出されてきているが、その實情は眞に同情すべきものがある一方同島で現在、大東製糖株式會社が米みん政府の援助で操業し砂糖年二百万斤も生産しようとしている今後これが琉球の利益に及ぼす影響は甚大である、去年十二月五日付スキャップ指令によれば〃副長官は琉球列島内にある不動産を所有している日本人の財産中米國政府が要としないものについては右の所有者に對し極力之を琉球列島の住みんに資るようにすゝめる〃と規定されている村みんの願いはこの條項に該當するものと思われるが、配慮の上、農民に土地を拂下げ土地を[illegible]に附し以て安じて農耕に從事せしめるよう陳情する

（註）南北大東島は戦前より日糖會社の所有に屬し、戦前に於ては市町村制も行されず、單に屬官や巡査駐在所が置かれていたにすぎず、教育も私立學校によつてのみ行われていた、戦後始めて市町村制が施行され、一つの地方自治体として発足したが土地所有權の確認と共に全村みん借地人となるわけで、自治体としての今後の発展に大きな障碍に直面したわけである

土地はなく……
人口僅か九百餘

北大東

〃土地を村みんに與えよ〃との陳情が北大東村からも同様に出されたが南大東村に比し北大東村は余計、地方自治体としての試煉にあつている、北大東燐鑛採掘で一時は活氣を呈したが其停止の打撃はひどく、離村者は増え更に土地所有權の確認による全島の日糖會社所屬は益々村みんを失望せしめている最近では村内の人口が九百余に減少、僅かこれけの人口で今後どうして一つの自治体を維持してゆくかが問題とされている、村みんの中には南大東との合併を望む者もあるようであるが、行政課としても研究上、何等かの對策を講じねばならぬとみている

ニセ刑事

六日午前四時頃▽和志村安里一區二班彼女旅館で那覇署防犯刑事と自稱する挙動不審の男がいるとのうつたえがあり調べの結果那覇市三區四班城信吉

タイムス

社説

愛する者に土地與えよ

「愛する者に土地を返せ」と叫ぶ南北兩大東島住民に同情を寄せて、群島政府並に社大黨では強力に軍と折衝することになつたらしい。われわれもその實現を望んでやまない。戦前から大東島は「忘られた島」である。この島のように、島全体が一資本家の所有に屬し、植民地化されて治外法權の觀を呈したところは他になかろうと思われる。沖縄の大東と呼ばれてはいたがそれは名ばかりで、沖縄本島との繋りは殆どなく、年一回程度の便船はあつたが、それも出稼ぎ人運搬のためであつた。この隔絶された絶海の孤島は戦前迄日糖會社が島王國を築き、市町村制も施行されず、單に屬官や巡査駐在所がおかれ、教育も會社經營の私立學校によつてのみ行われる等、類例のない別天地を構えていたことも周知の通りである。而して遠く隔絶された絶海の孤島だけに、沖縄住みんの關心も至つて薄く、砂糖や燐鑛の採れる島という程度の漠然たる知識しか持合せがなかつたことも確かである。凡そ非近代的な植みん地化された島王國がこの如く厳として存在したことは不思議なことには違いないがそれが戦前に於ける非みん主々義時代の所産であつてみれば、かかる不合理な謎めいた島の出現も、怪まれずに濟んだというものである。

年一回の大島行の船便には、恒例のごとく政界、言論界その他官公吏代表を含む視察團が結成され、異國情緒こまやかな大東王國の視察が試みられたものだが、視察者はこの島の「仲間」と呼ばれる農民や小作人がさながら飼い馴された奴隷のごとく、牛馬小屋に劣らぬ掘立小屋に住み、最下等の生活を細々と營んでいる慘狀を親しく目撃し一掬の涙を垂れ、義憤を抱いて異口同音に「地獄の島」だと三嘆したことであつた。このことはその都度新聞に報ぜられ、識者の關心をたかめたとはいうものゝ、治外法權の島であつてみれば、手の下しようもなく、その儘默認されて、大東仲間の苦斗史は幾久しく綴られ、遂に奴れいと化して、今日に到つたのである。

然し、この島にも戦後は米軍政による民主化の波が押し寄せ、始めて市町村制が施行され、一つの地方自治体として発足したことは、云わば、この島の住民にとつては、過去の苦斗史に終止符をうつ劃世的な福祉が、沖縄住民と同様に與えられたことになり、おおげさにいうと奴隷から人間への改造でもある。それに、現在大東製糖株式會社が米民政府の援助で操行され、産糖年二百万斤も生産しようとしているらしく、島みんの蘇りはもちろん、今後これが琉球の利益に及ぼす影響はけだし甚大なものがあろう。このとき土地所有權の確認に伴う土地返還が行われて南大東島が日東社の所有に屬し、全村みんが借地人になるとしたら、再び戦前に於ける島王國を再現し、今後の民主的発展に大きな障碍を與えるであろうことは火を見るより明かである。流石に兩島民はこのことを心痛し「愛する者に土地を與えよ」と訴え出たものと思われる。この悲痛な叫びに政府並に社大黨が耳を傾けて極力米軍當局に對し大東島に限らずこれに類似した土地の譲渡運動を展開することになつたらしく、われわれも米軍當局の善處を期待してやまない。幸スキャップ指令により米軍當局より、極力これが譲渡を日糖社にすすめ、日糖社も亦これを承諾するということになれば問題は容易に解決されようが、不幸にして纏まりがつかない場合は、日本における農地改革に類する自作農創設の道を講ずる等してこれによつて農業近代化を阻む最大のガンとされていた地主的土地所有制度の覆滅を望んでやまない

うるま新報
發行所　うるま新報社
那覇市三区十五組　電話　那覇39番
編集印刷發行人　池宮城秀意

評判の好い
土井ラヂオ店
那覇市壺屋劇場入口前

對日講和の正式調印場所
サンフランシスコと決定
九月四日から八日の間！

（サンフランシスコ六日ユーピー）サンフランシスコ市長エルマー・ロビンソン氏の側近者は六日サンフランシスコが對日講和條約の正式な調印場所に選ばれていると言明した

（ワシントン六日ユーピー至急報）米國務省當局者は六日、對日講和條約の調印式が九月の第一週の間にサンフランシスコで開かれることを確認した

△備考　USIS電によれば對日講和調印會議の開催地がサンフランシスコであるとの報道を確認した米國務省當局者は同省スポークスマンのリンカーン・ホワイト氏である

（ワシントン六日ユーピー）米國務省當局者は九日米國政府は對日講和條約の調印式の場所としてサンフランシスコを選んだことをダレス國務長官顧問がサンフランシスコ市長ロビンソン氏に通知したとの同市長側近の言葉を確認した後、當局者はこれについて次のように言明した

米國政府は目下調印式の場所を選んだことについて關係各國政府に通達している最中なので公式な發表は今すぐ行われない、ダレス氏は最初電話でロビンソン市長と話し、ついで電報で兩者の會話を確認したが連合國各國政府からは別に反對はないものとみられている

首相と話を進めたことはない、サンフランシスコは場所として日本からその近くはないが、できれば吉田首相が自ら首席全權となることが望ましい、首席全權を含めて全權委員の構成は四人ないし五人としてそのうちわけは衆參兩院代表各一名、政府代表一名、民間代表一名ぐらいが適當ではないかと思う、この際か野黨代表として民主黨の幹部が參加すればよいと思う

歴史的オペラ、ハウス

（サンフランシスコ六日ユーピー）サンフランシスコ市長側近者は六日、對日講和條約の正式調印式の場所としてサンフランシスコが選定されたと言明したがカリフォルニア州グラス、ヴァレイで休暇中のロビンソン市長はこの歴史的な調印式は九月四日から八日の間に一九四五年國際連合が誕生した場所である戰爭記念オペラ、ハウスで行われることになろうと言明した

近く招請状發す
改訂草案は配布を完了

（ワシントン七日ユーピー）米國はサンフランシスコで九月四日から開かれる對日講和條約調印會議に出席するように、今月下旬、約五十カ國に招請状を發するものとみられる。當局者の言によれば、米英兩國が共同で招請國となるもようで日本と戰爭状態にあった國および形の上で今なお戰爭状態にあるすべての國が會議に出席するものとみられる、ロビンソン、サンフランシスコ市長の發表によると調印會議は戰爭記念オペラ、ハウスで九月四日から約四日間續くが會議に先立って講和條約のあらゆる問題が解決されることになっているため、會議は全く形式的なものになる

（ワシントン七日ユーピー）[illegible]題についてはすでに殆んど意見一致をみているが、あるいは妥協点を見出しており調印を急ぐこととにふんら支障ないものと當局者はみている、調印會議にはダレス氏とともにアチソン國務長官も出席するものとみられるがトルーマン大統領が出席するかどうかは今のところ明らかにされていない

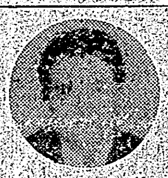
（ワシントン六日エーピー）ダレス米國務長官顧問は六日、對日講和關係諸國にたいする改訂條約草案の配布を完了した、なお國務省當局者は、改訂された條約の内容は近く發表される豫定であるが發表の正確な期日はまだ最終的に決定していないと言明した

早急に全權團
衆參院代表や民間代表

（東京七日）井口外務次官は七日講和會議が九月第一週、サンフランシスコで開かれることに決まったとの報道にたいしつぎのように語った

講和會議の場所と時間はまだ正式に通告を受けていない、しかしこの間のアリソン公使會談で會議開催の場所は條約の調印地に決定し

シ大使談



（東京七日）總司令部外交局長シーボルド大使は、サンフランシスコが對日講和[illegible]

理想的な場所
五十國の全權團を收容

第一候補サンフランシスコ第二候補東京と聞いていた、いずれ正式に通告があるものと考える、會議に參加する全權團の構成については首席全權に誰がなるかは吉田首相が各方面の意見をきながら決めることと思う、まだ全權問題については

たとの外電について七日朝、次のように述べた（寫真はシ大使）

全く理想的な場所を選んだものと思う、約五十カ國の調印參加國の全權委員團を收容するのは容易なことではなく、この点サンフランシスコは多數の立派なホテル、調印會議に適した會堂をもっており、講和會議開催地としてこれ以上よい條件

インド政府反對なし？

（ニューデリー六日エーエフピー）インド官邊筋は六日インド政府は對日講和條約の最終草案を受け取り檢討中であると言明したが、官邊筋の批評はまだないが消息筋によればインド政府が最初出した一部の提案はこの最終草案に含まれているのでインドとしては反對はないもようである

和戰兩様に構う
國連軍、停戰交渉に備え

☆　☆　☆

（ニューヨーク五日大竹共同特派員）朝鮮停戰交渉前に國連軍が和戰の構えを整え共産側の望むところに從ってあらゆる事態に備えているのは當然だ、この分析は共産側が現在心から和平を欲しているのだと信じがちな西歐の觀察者の意見を反映している、だから西歐の停戰交渉が成功すれば米國は「國連軍のとう一司令部」として永久的な平和解決のためのすべての處置を國連總會にゆだねるだろうと一般に信じられている、この總會に北京と北鮮の代表が意見を述べるため招かれるかどうかはまだ非常に疑わしいがこの問題の決定が國連にゆだねられることはほぼ確實だ、さらに總會開催のさい中共政府と國民政府のどちらを國連への真の代表として認めるべきかの問題が台灣を中共に引渡すべきかどうかの問題にからまってまた出てくると思われる、米國はできる限りこれらの問題を避け總會また朝鮮問題解決のための

とにも武力を振うことを明らかである、ソ連が休戰を提案したこと、敗戰者だけが和を乞うというのが歴史的な傳統であることおよび共産軍が力の限度に達したため休戰を求めている事實によっても國連

めに設けられるとみられる特別委員会に力を入れて、一、朝鮮にたいする國連の救済および復興計画

二、どうして朝鮮統一という當初の國連の目的を達成するかという二つの緊急な問題に集中するとみられる、台灣問題および中共政府の國連加入問題にたいする米國の態度は周知のとおりで十一月パリで開かれる一九五一年度總會に引きつがれるまでの現在の總會期中にこれらの問題についてなんらかの決定が行われるとは

まずあるまい、それ故朝鮮に真の平和と永久的解決をもたらすため多くの難問題が持越されるだろう、[illegible]

調印場所オペラハウス

（東京七日）講和條約調印場所に豫定されているサンフランシスコのオペラハウスは正式にはウォー、メモリアル、オペラハウス（戰爭記念館）と呼ばれ第一次大戰戰沒者を記念する爲カリフォルニア州の郷軍團体が募金して建てサンフランシスコ市に寄付したもので堂々たる大理石でできたこの豪壮な建物は觀客約三千名を收容でき近代的設備の整っている点では世界最大のものである一九四五年六月國際連合が發足したサンフランシスコ會議が開かれたのもここで國連憲章調印式と同じ様式で對日講和條約も世界各國から集まる代表團、新聞記者その他關係者、傍聽者など約千人の注目のうちに調印されることになろう

フランシスコ市民は米國でもっとも太平洋問題に深い關心をもっておりこの會議を大歡迎するであろう

各國の全權委員團が集まるための交通の便はきわめてよくまたサンをそろえた都市は容易に見當らないだろう、

きょう開城豫備會談
國連、共産双方の準備完了

（東京七日）六日午後十一時五十五分東京で傍受した平壌放送によれば共産軍は六日付リッジウェイ國連軍總司令官のメッセージを受領し同意したことを確認した、その放送の内容はつぎのとおり

國連軍總司令官マシュー・B・リッジウェイ大將、われわれは貴下の[illegible]のメッセージを受領した、われわれはそれに同意するものである

朝せん人民軍總司令官金日成
中國義勇軍司令官彭徳懐（UP）

（東京七日）リッジウェイ國連軍總司令官の六日付のメッセージに對し、金北鮮軍司令官は六日夜これを受諾するとの回答を發したので朝鮮停戰豫備會談はいよいよ八日三十八度線上の開城で開始されることになった、この會談では十日から開かれる兩軍司令官の正式會談に先立ち、代表の通告、時間および場所の打ち合せなど本交渉開始の準備を行うものとみられ特に支障

ない限り豫備會談は豫定通り終了し十日の正式會談に移行することになろう、十日の正式會談では、現在の戰線における戰斗停止、非武裝地帯の設置、停戰協定遵守にかんする保証の問題などが討議の對象となるものとみられるが交渉の範囲をどの程度に局限できるかどうかがこの會談の成否をきめるかぎとなろう

開城の準備を行うとのりこみ一切の會談ラック各五台で開城に先立ち七日午前五時平壌地区からジープともとづき國連軍がわにかわ代表はこの協定に決められたもので共産

も八日は前九時ジープまたはヘリコプターで臨津江を渡ることになっているから開城到着はおそらく八日午前になろう、豫備會談は本交渉の開始日時、交渉内容をいかにするかなど技術的問題について打合せを行うものとみられ双方に反對がなければ停戰本交渉は十日から開城で開かれる段取りである

かくて實現！
停戰提案から十日

（東京六日）朝鮮停戰のリ最高司令官からの停戰交渉正式申入れで具体化し、以來六回にわたって開催地点、期日、軍使の經路などについて双方の意見を交換した結果、八日豫備會談を開くこと、場所は開城とすること、代表は國連軍がわが大佐二名、通譯を含む將校二名、共産軍側が大佐二名、通譯を含む代表三名、通譯二名、および接待員附員などとすることが取り決められた、金日成と彭徳懐共産軍兩司令官との間の細目打合せが終ったので電波にのせたやりとりの交渉も終りいよいよ八日三十八度線上の開城で開かれることになったが今回の停戰交渉は六月二十三日マリク國連ソ連代表の三十八度線停戰提案によってその第一歩をふみ出し以來六月二十七日のモス[illegible]

對ソ友好決議發送
トルーマン大統領

（ワシントン六日エーエフピー）ホワイトハウス當局は六日、トルーマン大統領がソ連國民を含むすべての國民にたいする米國の友情を表明した米議会の決議の内容を[illegible]

ようにと要請するメッセージをシヴエルニク、ソ連最高會議幹部會議長に送ったと發表した、ト大統領のメッセージの内容はシヴエルニク議長が受理するまで發表されないもようであるが、なお米議会の友好決議は「米國民は米ソ兩國間の意見の相違を解決するための一切のまじめな努力を歡迎する用意をつねに持っている」とのべている

ソ不參加の講和
ソ連政府機關紙が非[illegible]

（モスクワ六日エーピー）ソ連政府機關紙イズヴェスチアは六日、米國はソ連および中共の參加なしで對日講和を締結することによって日本と他のアジア諸國間に緊迫状態をつくり出そうとつとめている、と非難した、さらにイズヴェスチアは「對日講和に參加したすべての國が講和條約を討議するため七月または八月会談を開催すべきであり」とのソ連の要求をくりかえすとともに「米國はさる六月

十日のソ連の要求に回答していない」とのべている

ス首相病氣説

（ロンドン六日エーエフピー）ロンドンの共産黨員の間では目下スターリン首相の健康状態について若干の懸念が表明されている、さらにモスクワ駐在のグレアム・インド大使が本國政府の命令に基きスターリン首相に會見を求めたのにたいし、ス首相との會見がいまだに實現しないためロンドン在住

ソ連圏諸國に最恵國條項廢棄

（ワシントン六日）米國務省六日發表によれば米政府はソ連その他ソ連圏諸國に對し、右諸國の米國向け輸出について關税に關する最恵國條項を與えている[illegible]

豫備會談は市公會堂
開城地區平穏

（朝鮮基地六日エーピー）國連軍探察隊の報告によれば共産軍兵士は停戰交渉の地開城の市公會堂を清掃し修繕している、これについて一韓國軍將校は六日國連軍探察隊が探察した開城市内のもようをつぎのように語った

探察隊の報告では市公會堂の修繕作業は五日から開始されたらしいが、この市公會堂は開城市内の中央部に位し警察署の前で市營病院の裏にある、共産軍は同時に市内の交通を管理しているらしい、しかしバリケードないし防禦陣地が構築されているような様子は全然ない、開城は戰禍で荒廢している、市内の約六十パーセントは廢墟と化している、探察隊は引揚げるまえに開城市内

國共[illegible]

歸國

マリク[illegible]

（ニュー[illegible]）マリク・ソ連[illegible]夫人[illegible]

社説
大東島の土地問題

農民から土地を取上げると彼らは生きた屍のごとく社會にも生活にも興味を失い、生きる力さえも喪失するであろう。先日南大東村の村長、村民代表が出發し、臨時中央政府や群島政府を訪問して「私たちにも土地所有權を認めて下さい」と二

千數百村民の悲願を陳情したと新聞は報じているが、けだし深酷な苦悶の叫びといえよう。

陳情書によると第二次世界大戰の終結は村民を「解放された小島」のように自由を得たと歡喜し「米軍の占領下にはいるや沖縄群島に地え飢餓と闘いながら政府の管轄下、轉戰の墾年、村創かしられ開拓以來、半世紀間の經歷から解放された村民の喜びは自らの力で戰後復興への新たな希望に燃え楽土建設へと

進して來た」と告白している。

南大東島開拓經緯によると明治三十二年玉置氏が政府より貸下許可を受け、開拓移住民を募集し、三十カ年の貸下期間後は所有權が認められることを前提

として[illegible]昭和十三年には會社が資本家の烈しい[illegible]に確認された宅地の權利も、會社あか字の棒引で返還して無一物となった。

南洋諸島における開拓の前、大東島における諸會社の經營は飽なき搾取であったと困苦欠乏の中に、玉置氏は、これらの地に渡った沖縄人の受難の生活の哀史であろう。

日本における新農地調整法がそのまま適用されることは困難であろうが、大東島開拓の既往会社の土地獲得の經緯、大東行といえば戰前よく開かれた話で大東島農地の特殊性を考えれば西表炭坑、北海道の墾植法の準用などを運想させたと人々の記憶するところであろう。

日本では連合軍の進駐とともに農地改革が實施され、農業の民主化が實現せられていて、地主個々の土地に考究を望んで已まない。

力の跳梁といい、人間としての纏ゆる自由を拘束されて地獄の生活を送ったということは、あろうが、大東島開拓の既往会社の土地獲得に大きな社会問題として兩政府の熱意ある

一つの方策が生れて來るものと考える。

さえ法律をもって農民の生活安定のために、労働者の酷使といい、再配分が行われている

…に構う 停戦交渉に備え

讃目のあるのこの分析は現在心から和ているのだとな西歐の観察を反えいしてから西歐の停成功すれば米連軍のとう一として永久的決のためのす置を國連総會るだろうと一られている、に北京と北せが意見を述べるため招かれるかどうかはまだ非常に疑わしいがこの問題の決定が國連にゆだねられることはほぼ確実だ、さらに總會開催のさい中共政府と国民政府のどちらを國連への真の代表として認めるべきかの問題が台灣を中共に引渡すべきかどうかの問題にからまってまた出てくると思われる、米国はできる限りこれらの問題を避け総会または斡せん問題解決のために設けられるとみられる特別委員会に力を入れて

一、朝鮮にたいする國連の救済および復興計画

二、どうして朝鮮統一という当初の國連の目的を達成するか

という二つの緊急な問題に集中するとみられる、台湾問題および中共政府の國連加入問題にたいする米国の態度は周知のとおりで十一月パリで開かれる一九五一年度総会に引きつがれるまでの現在の総会会期中にこれらの問題についてなんらかの決定が行われることはまずあるまい、それ故朝鮮に真の平和と永久的解決をもたらすためには多くの難問題が残つており、これについての討議は困難で長びくものとみられる、一方もし今度の停戦會談が失敗すれば國連軍が全面的な攻撃に出て共産軍を鴨緑江のかなたに追い返すだろうという兆候がある、もちろんこのような攻撃は準備が完了するまでできないだろうがそれが満州爆撃、中国本土の沿岸封鎖および原子爆弾、原子力兵器の使用を行うことはほとんど確実である、しかし國府軍の使用はこの攻撃が第三次大戦に発展する時まで延期されるだろう投近のマ元帥解任問題の公聴会での米國軍事指導者の証言から判断するとこの全面戦争へのコースはトルーマン政府がこれまでとつてきた「制限戦争」という考えに代り得る唯一のもののようだ、従つて朝鮮で休戦あるいは停戦を達成するのに失敗すれば制限戦争論者にたいして重大な打撃となるだろう、そのときにはトルーマン政府も世論の圧力によってマッカーサー元帥とその支持者が主張してきた過力な政策を採用せざるをえなくなるに違いない、米国はすでに朝鮮において今までよりも大規模な戦争の準備ができているようにみえる、事実米国は最近國連諸国に部隊の増派を要請し中国本土の経済封鎖のきよう化、海軍による封鎖を要請した、だからもし今度の停戦会談が失敗すれば米国は軍隊の増派を要求するとともに朝鮮で国連の目的を達成するためにはたとえ第三次大戦の危険を犯しても軍事上の勝利をおさめることが必要だと主張することになるだろう

…場所 ラハウス

…日）講和條約に發表されてフランシスコハウスは正式ー」メモリアラハウス（騎）と呼ばれ第一次大戦戦没者を記念する為カリフォルニア州の郷軍団体が寄金して建てサンフランシスコ市に寄付したものである大理石でできたこの家壮な建物は収容約三千名を數容でき近代的設備の整つている点では世界最大のものである 一九四五年六月に國際連合が發足した名名なサンフランシスコ会議が開かれたのもここで國連憲章調印式と同じ儀式で対日講和条約を世界各國から集まる代表団、新聞記者その他関係者、傍聴者など約千人の注目のうちに調印されることになろう

ソ連圏諸國に 最恵國條項廃棄

（ワシントン六日）米国務省六日發表によれば米政府はソ連その他ソ連圏諸國に対し、右諸國の米國向け輸出について関税にかんする最恵国條項を与えた一切の通商條約を廃棄することになろうと通告した同時に國務省はソ連および中共から毛皮類の輸入を禁止した

開城豫備會談 共産双方、準備完了

…五十五分東京で傍受した平壌放送に…イ國連軍總司令官のメッセージを承認した、その放送の内容はつぎの…

豫備會談は豫…了し十日の…に移行すると…う十日の…は、現在の戰…る戰斗停止、…帶の設置、停…守にかんする保証の問題などが討議の対象となるものとみられるが交渉の範囲を『軍事問題に局限できるかどうかがこの会談の成否をきめるかぎとなろう

…決められたもので共産側代表はこの協定にもとづき國連軍がわに先立ち七日午前五時平壌地區からジープ・トラック各五台で開城に向け出発し、一切の会談の準備の手配を行うとともに、國連軍代表も八日午前九時ジープまたはヘリコプターで臨津江を渡ることになつているから開城到着はおそらく八日午前になろう、豫備會談は本交涉の開催日時、交渉内容をいかにするかなど技術的問題について打合せを行うものとみられ双方に反対がなければ停戦本交渉は十日から開城で開かれる段取りである

豫備會談は市公會堂 開城地區平穏

（朝鮮基地六日エーピー）國連軍探察隊の報告によれば共産軍兵士は停戦交渉の地開城の市公会堂を清掃し修繕している、これについて一韓國軍将校は六日國連軍探察隊が探察した開城市内のもようをつぎのように語った

探察隊の報告では市公會堂の清掃修繕作業は五日から開始されたらしいがこの市公会堂は開城市内の中央部に位し警察署の前で市営病院の裏にある、共産軍は同時に市内の交通を管理している兆候があるがしかしバリケードないし防衛陣地が構築されているような様子は全然ない、開城は戦禍で荒廃し市内の約六十パーセントは廃墟と化している、探察隊は引揚げるまえに開城市内に入つきが市ないには仕かけたわなのようなものは全然なかつたと言つていた二週間前国連軍工兵隊は国連軍陣地から開城へ通ずる道路上で三十八個の地雷を撤去したが停戦提案が發表されて以来というものはわれわれは地雷をまつたく發見していない

國連軍平康へ突入 鉄の三角地帯制壓

（中部戦線六日エーピー）鉄原を出撃した戦車と歩兵からなる国連軍探察部隊は六日無抵抗のうちに共産軍の「鉄の三角地帯」の北端平康に突入した

マリク代表歸國

（ニューヨーク六日ユーピー）朝鮮停戦を提案した時の人、ソ連代表は六日、夫人および令嬢同伴スエーデン汽船グリップスホルム號で歸國の途についた、マリク代表は出發にあたり、わたしは三年ぶりで歸國できるのでうれしいき任する時期について語るのはまだ早すぎるわたしとしてはできるだけ長く体をのばしたいと思っている、と語つたのち記者団からステートメントを求められたがこれにたいし「米ソ両國間の平和と友好のために戦つている人々によろしく」とのべた

…くて實現！ 停戦提案から十日

…日）朝鮮停戦…談は八日リッ…國連軍司令官…ばつ、雙方共…令官との間の…せが整つたの…のせたせぶみ…りいよいよ八…度線上の開城…ることになつ…停戦交渉は六…日マリク國連…の三十八度線…によつてその…よみ出して以…十七日のモスクワ交渉、六月三十日のリ最高司令官からの停戦交渉正式申入れで具体化し、以來六回にわたつて開催地点、期日、軍使の経路などについて双方の意見を交換した結果、八日豫備會談を開くこと、場所は開城とすること、代表は國連軍がわが大佐を含む將校二名、通譯二名、共産軍側が大佐を含む代表三名、通譯二名、および接待員随員などとすることが取…

…ソ友好決議發送

（ワシントン六日エーエフピー）ホワイトハウス當局は六日、トルーマン大統領…連国民を含む…ての國民にた…る米国の友情…関した米議会…議の内容をソ…民に知らせる…要請するメッセージをシヴエルニク、ソ連最高会議幹部会議長に送つたと發表した、ト大統領のメッセージの内容はシヴエルニク議長が受理するまで發表されないもようである、なお米議会の友好決議は「米國民は米ソ両國間の意見の相違を解決するための一切のまじめな努力を歓迎する用意をつねに持つている」とのべている

ソ不参加の講和 ソ連政府機関紙が非難

（モスクワ六日エーピー）ソ連政府機関紙イズヴエスチアは六日、米國はソ連および中共の参加なしで対日講和を締結することによつて日本と他のアジア諸國間に緊迫狀態をつくり出そうとつとめている、と非難した、さらにイズヴエスチアは「対日戦に参加したすべての國が講和條約を討議するため七月または八月会議に開催すべきであるとのソ連の要求をくりかえすとともに「米國はさる六月十日のソ連の要求に回答していない」とのべている

ス首相病氣説

（ロンドン六日エーエフピー）ロンドンの共産黨員の間では目下スターリン首相の健康狀態について若干の懸念が表明されている、それはモスクワ駐在のラグクリシナン・インド大使が本国政府の訓令に基きすら力月前ス首相に会見を求めたのにたいし、ス首相との会見がいまだに實現されないためロンドン在住の左翼的インド人の間に懸念が生じたのがはじまりで、この懸念を裏書きする事実としてさらに次の二つがあげられている

一、モスクワを訪問したカンタベリー寺院のジョンソン僧正に世界平和賞のメダルを受与したのはス首相ではなかつた

二、ある英共産黨幹部（その名前は明らかにされていない）はモスクワに訪問中スターリン首相と会見できなかつた

國際裁定認めず モ、イラン首相が聲明

（テヘラン六日ロイター）モサデグ、イラン首相は六日

イランは國際司法裁判所が管轄外の問題について裁定を行う權限を認める用意はない

と言明した、またテヘランの英大使館スポークスマンは同日

もしもイランが国際司法裁判所の通告を拒否すれば英国のアバダン引揚げは不可能となる

と語つた

英國は受諾

（ロンドン六日ユーピー）英外務省は六日声明を發表、英國はイラン石油紛争にかんするハーグ國際司法裁判所の裁定を受諾しアングロ・イラニアン石油会社運営にかんするかん議委員会設置についてイラン政府と直ちに交渉する用意があるとのべた

會談後毎日メッセージ

（東京七日）渉外局六日の發表によれば朝鮮停戦会談について毎日会談終了後コミユニケが公表される

貿易廳がセメント購入希望受付

貿易庁ではセメント七万一千七百七袋（小野田セメント五五キロ入）が入荷、販売課ではあすから購入申込みを受付ける、価格は一袋一二〇円で希望者は購入申込の上軍那覇桟橋で受取る事になつている

新世代 美しい汗…

各地の巡演を了えた石井みどり舞踊團一行は、明九日出帆の白山丸で日本に歸るが…滞在日数二十三日、うち十日続けた那覇と、各地での公演日数が十八日間、夜の園…にして実に三十六回の大車輪…誠に佳い試みを見せて貰つた…とは真境名由康さんはじめ大方の感想…アイスケーク文化の

先月の當地では、十六日、氷島、高級すぎだよ！と敢えて己れを卑下する側仁もいて様々だが…なかで屋我地愛楽園の人々の感動ぶりは、傍のものが涙にほろりとしたと語るが…晝も夜も、舞台の照射の中ではむろん、埃りつぽい楽屋の隅でも気の済むまで…愉しい笑顔で踊りつゞける踊子の、汗だく姿を…世にも美し、と思わぬ人はよもやあるまい…

戀愛雑考 (5)

名嘉地宗直

…望の淵に家庭愛を捨て迄も傳統の名誉と財産を守り度いと泣く貴族の卑俗さに遂に彼女は森の番人メラーズと戀仲に陥ち入る様に成…の物語りであつて作者D・H・ローレンスは決して日本人が考えている様なカストリ雑誌に迎へられる思想家ではない。森の番人メラーズを描いて「彼は森の中に這入つて行つた、それは女が悪いのでもなく戀愛が悪いのでもなくセツクスが悪いのでもなかつた悪いのはアノ向ふの方にある邪悪な電灯や悪魔的な機械の騒音…つまり文明の貪慾なメカニズム…自己に合致しないものは凡て亡ぼさうと待ちかまへて居る巨大な邪魔物なのだ」これが現代の悲劇をつくり出すのである」と叫ばしている

戦争の害悪を憎まない者が果しているだろうか。十八世紀以来發達した科學文明は一面に於て人の為に迎えられながらバラの花の持つトゲの毒素は人間を虫ケラ同様な生活に押し込めて行く

筆者はチャタレー夫人コンスタンスに夫婦愛の美徳をなぜに精神生活の糧を以て神に捧げなかつたかと一部の識者が訴える様な事はしたくないし又彼女の不倫な生活を礼讃もしない。

作者ローレンスも述べた様にマルカルリード卿の姫であるコンスタンスは藝術と漸進的社会主義との雰囲気の裡で—つまり美へのあこがれと傳統との反逆との中で…育てられた不倫な戀に對する彼女の倫理的な反省は同じく傳統への反感に他ならざして居たからである。彼女は優しい母性的な女であり、柔かい褐色な髪としつかりした體とを持つて居た、血色の好い田園的な戀の女なのであつた、動作は静かだつたが其形には異常な力が秘められてゐり大きなイブから様な眼と柔かくなめらかな声を持つていた。第一次大戦前の獨大陸の自由な放しな天地、男の學生達との開放的な對等の交際とソノ結果の試験的な戀愛経験、彼女等は青春時代の感傷と軽卒な理論から平気で相手に身体を与えてしまう…彼女は十八才であつたと説明している点から推しても獨大陸の腐敗した放逸な戀愛の遊戯的自然主義が風靡した社会層はいつの世でも同じ事を操り返す歴史のいたずらな汚点は自由を放縦な形で見せて人を迷はし世を毒するものであつた。

モデル病棟短歌會（第五回）

縞笹を添えて生けたる黄と紫のかんなは大きく咲き定りぬ　泊之男

夏真盛微熱のありて病む床に安志が二歩を歩きしと聞く　呉我春男

草の中の枯木を切りておる人の赤銅肌に汗の光るも

梅雨晴れのすゝきのゆるる秀の上に風に向かいてとんぼ群れとぶ　亀田安英

夕日射す窓の金網に彫らつりぬ屋根に雀の遊びをるらし　名渡山秋雨

死ぬ際にうばが吾に云へるありいき夕月は潮引くらむか

短か夜の明け初むる頃落ちつきし患者を寝かせ顔洗いけり

沖水修理工場開設

郷土復興の原動力たる輸送面に聊かでも貢献しようと思いまして今度修理工、二十有余年の経験を有する糸数昌幹君を技術主任として沖縄水運構内に修理工場を開設し軍民所有の各種自動車を修理する事になりました私達は親切、丁寧、確實、迅速をモツトウとして勢ります。ので必ずや皆様方の御期待に副う事と思います、どうぞ多少に拘らず御利用下さい

修理種目

各種自動車修理 電氣、ガッよう接 タイヤー修理 グリスサシ ラツカー吹付 洗車

沖縄水産組合連合會直營 沖水修理工場

沖水運輸課長 田名宗総
修理責任者 糸数昌幹
同 平良哲夫

◎入荷案内

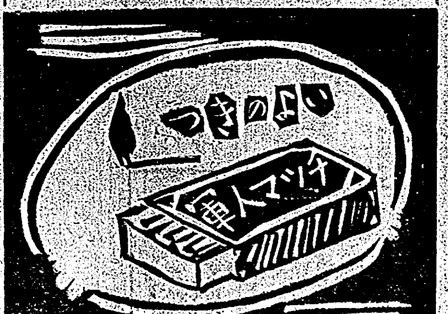
夏向柄木綿地
同ラシヤ服地（タフル巾）
サラシ木綿
下駄、陶器（小皿、中皿）昆布

右の品にゆう荷中付 何卒御下命下され度
尚量少きため早目に御買求め下さい

那覇市外栄町ロータリー南側

中外商事株式会社

經濟的な良質



那覇市松尾区二中通り

き 儀間本店 電話132番

入荷御案内

日本製煙草各種入荷致しました、廉価にて販売致しますから多少に拘わらず御用命下さい

那覇市天妃旧元山號百貨店向い

大島産業商事株式會社

江戸で誇る— 技術で誇る—

江戸前にぎり！

聞いたか見たか立食の完備 一度御試し 江戸の味合い

旭寿司本店 那覇市神里原大劇前

支店〔江戸前專門〕那覇市松三叉路前

來年度契約學生の採否
沖縄の歸屬如何によるか
「カギ」握るは對日講和條約

（東京外間通信員發）本年度日本に於ける契約學生採用中止は在日琉球學生間に大きな反響をよびおこし、來年度の契約學生も中止になるのではないかとの憶測を生んでいるがこれにつき沖縄學援當局は次のように契約學生の見通しについて語っている

本年度日本に於ける契約學生七五名の採用が中止になった理由については民政當局ではつきり言明していないが日本で契約した學生のうち解約した者が若干名出て來たことや經費の關係から中止になったと思われる 來年度契約學生の採用がどうなるかについては否々としては何ともいえないが對日講和條約による沖縄の歸屬の決定如何により大きく左右されるのではないかと思われる、學援では講和條約の締結とともに自費留學の實現を見こして既に文部省がわと折衝し受入れ準備をととのえている

學援の觀測

自費留學生適性檢査 12月中旬に施行
學援と文部省が具體案懇談

沖縄學徒援護會では六月廿日東京丸の內日本工業倶樂部に文部省側關係局課長數名を招き戰後沖縄教育界の懸案たる 一、日本への教育視察員及び研究教員派遣 二、自費留學生について、種々の具體的な意見の交換を行いその實現に文部省側の積極的な援助と協力を要望、高嶺會長は廿二日に文部事務次官と更に廿六日には天野文相と會見右二件の早急實現と積極的援助を要請する「沖縄教育に關する陳情書」を提出、援助方を要請した

廿日の文部省と學援との懇談會の出席者及び懇談內容は次の通りで文部省がわはこの問題については始終同情的で理解ある態度を示し早急實現に非常な熱意を示した

▲出席者 學援がわ高嶺會長、吉田副會長、元川一郎理事、前原常務理事 文部省がわ大學局教員養成課長、初中等教育局長代理、同局地方連絡課長、同局中等教育課長、初等教育課長、高里ユネスコ課事務官

▲教育視察員及び研究教員派遣の件 文部省としては可能な限り援助する、沖縄からの教育視察日程などについて、文部省がわと連絡すれば便宜をはかる、研究訓導派遣の件は戰後教育制度の改革で戰前と異り文部省の一存で出來なくなっており、地方の教育委員會が受入れてくれるかどうかにかかっている、經費が沖縄持ちであれば問題はないが、そうでない場合の負擔について問題があるが出來るだけ援助する意向である

▲自費留學生の件 文部省としては自費留學生に對しては契約學生と同樣適性檢査を行いこれによって大學留學の資格を與える意向で今年の十二月十六日に行う豫定の大學にゆう學適性検査試驗を日本と同樣同日に沖縄でも施行したい、入學學校については契約學生なみに學校にはかるがこれは學校の受入れ如何による なお自費留學生が大學教程を終るまでの間の學資が確實につづくかどうかの保証や戰争中戰後の不充分な教育により殊に理科方面が日本の學生より遙かに劣っていることなどが自費留學生受入に關する問題点として取上げられた

文部省に陳情二件
日本教育視察と自費留學

高嶺學援會長が天野文相へ提出した沖縄教育に關する陳情書中要望した件の要旨は次の通り

一、日本教育視察員並に研究教員派遣の件 沖縄の教員の最上の念願は日本に渡り戰後の日本の教育を學びたいということで戰後日本教育を視察し學んで歸った者は僅かに六名を數え [illegible]

二、自費留學生許可促進の件 [illegible] 現在の狀態では [illegible] 名の學生を日本々土に送っていた道が塞がれ、青年諸君は前途の目標を失い、失望落胆していたが幸にも一昨年契約學生制度の實施を見、彼等に希望を與えた、しかしその選抜試驗は極めて激烈で、僅かに一部の者のみがこの恩典に浴するのみならず特殊なる學科に限られ、或は又軍當局に對する特別なる義務も課される [illegible]

投稿歡迎

バス會社へ

六月二十五日正午發那覇—泡瀨行き××バス中の出來事、与儀農試所一寸過ぎた所で待合客もないのに停車した、すると女車掌さん案內を整理して居る？客が居なければ早く出しなさいと言うと車掌さん曰く「從業員ですよ」と從業員が何か此ちらの知った事でない、しばらくすると二人の羽織を着けた男と女二、三名に子供が若干じょう車した、じょう車するのはよかったものの、其処のお客さんは席をゆづって下さいとの女車掌さんの整理振り又整理した後もおもむろに着席する方々の氣持は如何なるものだろうか？又立たされる人の氣持、こちらは最初から待ってようやく乗ったかと思えば後に乗車する而も從業員から優先的に席をとられるとは何たる事か、「大衆を誇る」「從業員」からサービスをモットーとするバス會社從業員の客に對するかかる行為は猛省を促すものである（南部・務田服所［illegible］）

食糧値上げ 市價に影響なし

補給食糧値上げが發表されており配給米の方も二、三日前六十五圓のがきのうは六十三円にさがった、市場に於ける米、油、大豆の値は何らの変動も來さず値下っており業者も値上げを豫想していない [illegible]

角力大會

農村工業育成 三補助規程

農水金庫 極力實現へ
農林省が資料集めて陳情

農漁業の專門金融機關たる農水金庫の設置は協同組合法公布と共にこれがその急な實現を要望され農、漁村では切實な問題として大きく叫ばれているが農林省では再三軍に折衝盡力中であるが去る五日船越總裁、吳我群府經濟部長、宮古、八重山兩群府代表外關係者參集水連會館で農、漁村金融對策委員會を開催各關係者よりの資料を提出審議を重ねた結果きよく力軍に折衝、回答を待って今後の對策を講じることになったが具體的な事例をあげ再び農水金庫設置方軍に陳情することとなった

醫療關係者に増俸を

[illegible]

高校教科 教育審議會

[illegible]

非鐵金屬蒐集 契約調印

既報—非鐵金屬蒐集については琉球サルベージ、琉球商事、南興貿易三社協力で一二〇日間（四カ月）の期間で行うとの契約調印式が六日ライカムTCセクションで行われた

にせ刑事 旅館脅迫

那覇署では本籍名護町字安和住所那覇市三區 [illegible] を偽刑事などで檢擧した、調べによると宮城は去る五日から真和志村安里一區二班彼女旅館に那覇署防犯風紀刑事と稱して投宿、同旅館前里才保氏にむかい脅迫じみた事もいっている

死後に遺棄

既報—一昨六日那覇 [illegible]

浅草の光ちゃん
新垣千代子さん絞殺さる

夜の女

去る四日正午ごろ東京都台東区浅草 [illegible] の第一小泉旅館で [illegible]、「夜の女」新垣千代子（一八）さん（本籍沖縄 [illegible]）がふとんの上で同居中の [illegible] 殺されているのを同家の女中が發見 [illegible]

未成年者飲酒喫煙
一齊取締りで二百名検擧

去る六月六日から同十 [illegible] までの [illegible] 一齊に未成年者の飲酒喫煙の取締りを行ったがその結果 [illegible] 八九名 [illegible]

久茂地町建設 期成會總會

諸物價攻勢に びくつく台所

七月分から補給食糧が約三割方値上りしているがこれが各家庭の俸給生活者の台所に与える影響を聞いてみた

米沖野球 さよう那覇で

強姦米兵に 懲役三〇年

十島村向け商品 積出しに注意

海事局の發足遅れる

陳情書に感謝

夏のあくま 腦炎 現る
用心第一！ みんなで追い出せ

子どものいのちをうばおうとする夏のあくま腦炎あらわる！

東村（國頭）平良区の大城清卿ちゃん（一才）宜野灣村宜野灣区の玉那覇美江子ちゃん（四つ）の二人は數日前から高いねつを出してお母さんたちをしんぱいさせていましたがおいしゃさんのしんだんによるとB型腦炎ということがわかり、まい日あたまをひやしてかん病しています

あつい夏によくかかるこの病氣は三、四才のおさない子どもたちから十五、六才の少年少女にもっともかかりやすく、時にはおとなの人もおかされます

水あび、木のぼり、せみ取りなどでたのしめる夏も、こんなおそろしい病氣があるからこまってしまいます

わたくしたちは次のことをよくまもって、いやな腦炎にはぜったいにかからないよう用心しましょうね

△かんかんてりつけるお日さまにじかにてらされないようかならずぼうしをかぶること

△つかれすぎないようにすること

△かにさされないようにすること

△えいようをとりぐっすりねむること

なおねつが出たりするとすぐおいしゃさんに見ていただくようにしたいものです

かえるの鳴聲（四）
傳説おとぎばなし

[illegible]

食糧値上げ 市價に影響なし

補給食糧値上げが發表されてからの市場に於ける米、油、大豆の値は何らの変動も来さず買い惜しみ、買い漁りの現象も見られなかった。米は一期米の收穫期で、金づまりの農家では早く換金しようとどんどん市場に出しそのため七、八日卸で一合二十圓の値が変って二圓値下りの現象を呈し値上げ發表のきのうも更に一圓値下って居る小賣価格は盛一升八十圓から九十圓で売られており配給米の方も三日前六十五圓のがきのうは六十三円に値下っており業者も値上げを豫想していない大豆も今まで通り配給が升四十二円島内産が四十八圓し五十円で賣られている油の値もメリケン粉も從來通り二斤四十五圓を保持して居り他の食糧品（芋、ソーメンなど）にも余り影響を與えていない

角力大會

きょう牧志で

雨で延期していた傳統…われる

で懲役の外に兵籍追放と諸給與没収の處分も科されている然し判決再審されることにはなっている

警察官の待遇改善
法務委が要望

議会の法務委員会は七日政府会議室で警察官ならびに司法職員の待遇改善問題その他について交通ポストの建設（糸満、コザの二ケ所）等について政府当局と協議善処方を要望した

竣工第一号 伊平屋中校

今次二二棟のトップを切って丸十組による伊平屋中校石造二教室は去月二十二日しゅん工したとの電報があった近く工事検査が行われる

農村工業育成に
三補助規程近く告示

戦後初の産業補助政策「農村共同作業場設置補助」「農村工業補助」「蚕業奨励補助」三規定は四日付公布になり数日中に告示されることになっている。これにより今年度の農村工業指導… 本年度補助豫算一二万圓も大体見通しがついているので補助規定は八月からし行されるものと見られている経済部ではこれとタイアップして共同作業場等における技術指導には経済部技官、農村駐在技術員を動員する計画の外、在野の食糧農産物加工の技術者で以て農村工業指導委員会の結成をも企図して指導面の万全を期している

米沖野球 きょう那覇で

米軍政府の共催による米沖親善野球大会は本日午後二時那覇ころ校球場で行われる米チームは二〇空軍タリツパースは戦豪ヤンキースチームを二度も破った優秀チーム、メンバーは次の通り

1	ローム	3B
2	ストグイ	2B
3	デヴィソン	BF
4	チブロウン	CF
5	プソン	IB
6	トム	C
7	メオリ	LF
8	シラニ	S
9	ジブソン	p

十島村向け商品積出しに注意

六月二十八日付で「十島村向け商品積出しの件」に基き同島方面に向けの諸物資と同島から搬出される物資に対し取締を実し中なる旨きのう警察本部に通報があったので沖縄の業者もこれに注意するよう警告を發している

あま美群島政庁では…

強姦米兵に懲役三〇年

ライカム一般軍法会議では去る三日（火）神縄娘を強姦した一米兵に懲役三〇年の判決を下したこれは五九オーディナンスデポーの一等兵メンドザカーロス去る五月二十日具志川で仲村エミ子をご強姦した罪によるもの

海事局の發足遅れる

臨時中央政府の海事局は既に貿易廳の原国政良海務局長がない定し申入があったようで結局海事局の設置は遅れるものと見られている

謝感に書情陳
大統領へナイルズ氏から謝感

日本復興への陳情書を米國大統領並ダレス特使に送った社大黨に対し一昨日政治顧問代理兼使節団代理の肩書でナイルズW・ボンド氏が平良総員長宛次の書簡を送ってきた

拝啓 合衆国大統領並ダレス大使から五月一日付陳情書を領收し之に対し感謝の意を表するよう依頼をうけた

工業家に報告義務

工業関係諸報告に対し督促しても成績が悪い経済部工業課では報告の適確で沖縄の工業実態を把握しようと沖縄群島経済統計調査條例による工業統計調査規則を立案中であるこれにより全島に亘る木工、窯業、印刷、食品加工、紡織等の各工業主は報告の義務を課されるわけである

労務所を再組織
中央労務所に集結

沖縄民政部は五日付文書を以って群島政府に労務所の再組織を指示した…これに従来の各労務所が七月一日から中央労務所に移管される事を…

傳説おとぎばなし
かえるの鳴聲（四）

それからしばらくじいさんかえるのおかあさんは、なくなってしまいました、ひとりぼっちになった子がえるはさびしくてさびしくなって、ひとりしくしくなきつづけました、そして、今までなに一つおかあさんのおっしゃるとおりにせず、わがままばかりしたことを心からわるかったと気づきないておわびをするのでした。「ゲッグ、ゲッグ、おかあさん、どうかおゆるし下さい、ぼく

はおかあさんの生きていられるあいだ、いつもアマノジャクばかりしていたにひとつ親こうこうができません、でも、おかあさんのゆいごんの、おはかのことだけは、かならずまもりますからどうかおゆるしください、ゲッグゲッグ、ゲッグゲッグ」そして子がえるは、なくなくなくなった、おかあさんのからだを、きれいな、はすの葉につつんで、ちかくの小

川の川べりへうめました。そして川原からも、つってきたきれいな石をすえ、りっぱなおはかをつくったのでした。けれど、なくなったかえるのおかあさんは、ほんとうは小高い岡にうめてもらいたかったのです。いつもアマノジャクで、なにをいってもあべこべばかりするじぶんのむすこのことですから、おかあさんとしては「川べりにうめてくれ」といっておけば、きっと見はらしのよい岡の上にうめてくれるだろうと思ったのでした。そんなこととはすこしもしらず、かえるの子は、こんどこそ、おかあさんのいいつけを

まもろうと、いわれたとおりに川べりにうめてしまったのです。だから雨がふりそうになってパラパラとふってくると、そのおはかが、ながれはしまいかと、かなしいこえでなくのだといいます。このごろのあえるでも、そのアマノジャクの子孫（しそん）なので、やはりおなじようになくのだということです（おわり）

あつい夏によくかかるいやな脳炎にはぜったいかからないように、わたくしたちは次のことをよくまもって、いい日あたまをひやしてかん病していますとすぐお医者さんに見ていただくようにしたいものです

城西初校

六年生九十四名は早元〃新聞〃（社会科）の勉強のため一昨日照屋寛幸、摩波源齊兩先生とともに本社を参観しました

きょうの行事

△平和記念塔建立総合協議会 後二時琉大
△米沖親善野球大会 後一時那覇ころ校
△相撲大会 後二時牧志ウガン
△那覇青逃各区対抗野球 前九時旭岳
△スクエアーダンス講習会 前十時石川情報会館
△長道会カーニバル 石川ビーチ

天気

五日 南よりの風やゝ強く曇時々俄雨 晩＝南よりの風曇りがち 海上＝風波が高い

良い種は榮える
長崎屋
神里原山形屋向い

大賣出し
日本製布團綿
夏、冬布團
多量入荷しました
今がお買入れ時!!
冬季の半値!!
売出し価格 最高 一組三、五〇〇圓 最低 〃 三、〇〇〇圓
衣料専門店 ふたば屋
那覇市神里原大洋劇場向い

重機及トラック運轉手採用
四トン車米製トラック運轉手 一〇名
二屯米製トラック運轉手 五名
二屯日本製トラック運轉手 一〇名
スクレツパー運轉手 二名
ブルトザー運轉手 二名
トレーラー運轉手 二名
右希望者は履歴書持参来談あれ
那覇市壺川区
合資會社 國場組土建部

貸間二階 參拾坪事務所向
那覇市神里原大通り
大洋貿易商事

運轉手採用 若干名
希望者は履歴書持参来談あれ
合同トラック株式會社

純喫茶 あそば
みつ豆専門店
那覇市場通り

家、土地賣買の御相談は
那覇市場前
和互舎へ
富村成章

首里第二夜昭和三年
辛同期生会を七月二十一日（土）午後八時開催 会費三〇圓と一品料理携行 首里市鳥堀区（ミ・パシ前）衆島宅 晴雨に拘わらず行います乞参集

開店
神里原大洋劇場二階
レストラン コロナ
本日より開店致しました
七月八日
池原幸子
下田美知子

本日封切 東映の青春肉彈篇
風雲児
柔道に生きる矢野正五郎が愛情のきずなを切って嵐のききょうヶ原に死闘する！ 銀幕一杯にみなぎる殺氣 宿命の決鬪！
龍崎一郎 折原啓子 主演
ヒル2時より2回 ヨル9時より
大洋劇場

眼科醫師指定
船舶用双眼鏡
医學用顕微鏡
白内症、乱視
老眼、近眼
遠近用レンズ
各種色メガネ
セイコー舎目覺時計
シチズン10型腕時計
入荷致しました
卸小賣
山下眼鏡専門店
那覇市國際通り市役所隣り

8日封切 堂々
お艶殺し
谷崎潤一郎の名作ここに映畫化成る
だんび的な耽麗派文豪の最高峰文豪
監督 マキノ雅弘
市川右太ヱ門
山田五十鈴
進藤英太郎
小澤榮
大江戸の隅田河畔に美しく咲いて妖しくも散った狂戀の花一輪
アーニーパイル國際劇場

TYK
野性
監督 澤村勉
原節子
伊豆肇
小澤榮
三宅邦子
アルプスの山野を馳けめぐる半裸の乙女！ 世紀の處女、原節子が捧ぐる清純なアルプス娘の戀物語
アルプス物語
アーニーパイル 平和館

上手なお買物は一家樂しい
今!!! お買時
今夏のモード特選婦人服品
パラソル ￥200 より
ブラウス ￥350 より
シミーズ ￥120 より
紳士用パナマ帽￥180、より
紳士用豚皮上質提鞄 ￥720、より
科學工作教材 目下販賣中
毎週木曜日 定休日
山形屋